

——— 東京近郊の小中学生400人の ———

親から継ぐ『食』、育てる『食』

2005年2月

農林中央金庫

調査結果の要約

I 食生活の実態

- ・朝ごはんは「毎日」(83.8%)、「きょうだい」(56.0%)や「母親」(49.7%)と一緒に食べる子どもが多く、「父親」(25.6%)とは別のことが多い。「ひとりで」(25.1%)食べる理由は、「家を出るのが家族より早いから」(53.0%)。「ごはん」(63.1%)より「パン」(76.6%)がやや多く、かける時間は平均「12.2分」。
- ・夕ごはんも「毎日」(84.8%)家で食べているが、中学生になると、朝ごはんと同様小学生よりも10ポイント強低くなる。家で食べない理由は「塾や習い事があるから」(85.2%)。夕ごはんは「父親」(51.8%)と一緒にのことも多いが、「ひとりで」(19.8%)も少なくない。朝夕ともに「ひとりで」という子どもも全体の10.5%いる。
- ・夕ごはんは「7時くらい」(30.0%)に食べはじめ、平均「29.6分」かけている。好きなおかずは「ハンバーグ」「カレーライス」「ギョウザ」がベスト3。それらは「母親」(91.3%)の手作りが多い。

II 食事の時の行動・習慣

- ・食事の時には、「家族と話をする」(80.3%)、「テレビを見る」(62.5%)子どもが多く、話題は「学校で起きたできごと」(74.5%)が中心。「母親」(83.3%)や「父親」(76.8%)と一緒に食べると楽しいと思っている。
- ・食事は「おかずとご飯を交互に食べる」(66.3%)子どもが主だが、「おかずを種類ずつ食べる」(19.8%)ばかり食べの子も少なくない。食事を「いつも・時々残す」(48.3%)子どもは半数近いが、残すと「作ってくれた人に悪い」(44.3%)、「もったいない」(37.8%)という気持ちは持っている。

III 食との関わり方

- ・これまで食べ物や食べ方について学んできたのは、「母親」(90.0%)からが特に高く、「父親」(51.5%)、「先生」(14.3%)、「テレビ番組」(13.3%)が続いている。家で「食べ物を粗末にしない」(58.3%)、「好き嫌いをしない」(51.3%)ことなどを守るように言われており、はしを「正しく持っている」(58.0%)子どもは、《男子》(49.0%)より《女子》(67.0%)、《小学生》(52.0%)より《中学生》(64.0%)の方が多。

- ・《はしを正しく持ち、「おかずとご飯を交互に食べる」》子どもは全体の 44.5%、《はしを正しく持っていない、食べ方に偏りがある（「おかずとご飯を交互に食べる」以外）》子どもは 20.3%であり、そのどちらでもない子どもが 35.3%。基本的な食習慣とマナーが身についている子どもは、身につけていない子どもに比べて、母親、父親とも食生活への参加度が高く、家族間のコミュニケーションがよくとれており、食べ物への関心や食べ物への畏敬の気持ちも持っている。
- ・「食器を並べる、料理を運ぶ」（57.8%）、「食事後の食器を運ぶ」（49.5%）子どもは半数前後いるが、男女差が大きく、《男子》は20～40ポイント低い。一方父親は、「料理を作る」（33.6%）、「なべ物やプレート（鉄板）料理の係り」（25.8%）など3人に2人が何らかのことをしている。父親の“食生活参加度”が高いほど、子どもの“食生活参加度”や関心、コミュニケーションの度合いが高くなっている。
- ・『食の安全』に「とても・まあ関心がある」子どもは51.5%で、学年が上になるほど高率になる。関心のある内容は「鳥インフルエンザ」（57.3%）、「BSE（狂牛病）」（54.9%）、「保存期間」（38.3%）、「食品添加物」（35.0%）など。

IV 食と学校生活

- ・給食がある子ども（69.0%）のうち、多くは給食が「好き」（55.1%）で、「嫌い」（7.2%）はごく少数。「みんなで食べると楽しい」（51.4%）、「家で食べないメニューを食べることができる」（42.8%）と感じており、好きな料理ベスト3は「カレーライス」「ラーメン」「揚げパン」、嫌いなのは「魚」「野菜」である。給食に地元の食材が出てくるかを「知らない」（66.2%）《小学生》が多いが、《中学生》の43.6%が「出る」と回答。
- ・学校で「お米の作り方」（42.3%）、「栄養」（40.8%）、「野菜の作り方」（32.5%）などを教わっており、お米や野菜を育てたことが「ある」（62.3%）子どもは、「楽しい」（37.3%）、「むずかしい」（35.3%）、「たいへん」（32.1%）と感じている。

目次

■ 調査企画	1
■ 調査結果の内容	3

I 東京近郊の小中学生 400 人に聞く 食生活の実態

1. 1週間に、家で「朝ごはん」を食べる回数.....5

ほとんどの子どもは「毎日」(83.8%)朝ごはんを食べている。平均 6.6 回／週

- 中学生になると、家で「毎日」食べる子どもが減少
- 朝ごはんを家で食べない日がある理由は、「起きるのがおそいから」(76.9%)が圧倒的に多い。以下、「食欲がないから」(32.3%)、「朝ごはんがないので」(6.2%)、「外で食べるから」(6.2%)など

2. 一緒に朝ごはんを食べることが多い人.....7

「きょうだい」(56.0%)や「母親」(49.7%)と食べるが多く、「父親」(25.6%)とはあまり食べていない。「ひとりで」(25.1%)という子どもも4人に1人

- 中学生になると「ひとりで」(36.2%)食べる子どもが、小学生(14.1%)の倍に
- ひとりで食べるが多い理由は、「家を出るのが家族より早いから」(53.0%)が最も多く、以下、「家を出るのが家族よりおそいから」(28.0%)、「いつもみんな好きな時に食べているから」(17.0%)など

3. ふだん、朝ごはんに食べているもの.....9

朝ごはんは、「ごはん」(63.1%)よりも「パン」(76.6%)

4. 朝ごはんを食べるのにかける時間.....10

「10～20 分くらい」(40.2%)が最も多く、「5～10 分くらい」(39.9%)もほぼ同率で続く。以下、「20～30 分くらい」(10.8%)、「5分以内」(8.3%)などの順で、平均は「12.2 分」

5. 1週間に、家で「夕ごはん」を食べる回数.....11

「毎日」(84.8%)が圧倒的多数。以下、「5・6回」(9.5%)、「3・4回」(5.8%)の順で、平均は「6.7 回／週」と、朝ごはんと同様回数

- 中学生は「毎日」(78.0%)が、小学生(91.5%)に比べ低率
- 夕ごはんを家で食べない理由は、「塾や習い事があるから」(85.2%)が圧倒的多数。次いで「外で食べるから」(23.0%)、「食欲がないから」(4.9%)などの順

6. 一緒に夕ごはんを食べることが多い人 13

「母親」(94.3%)をはじめ、「きょうだい」(75.3%)、「父親」(51.8%)など、朝ごはんに比べて家族と一緒に食べる人が多いが、「ひとりで」(19.8%)という子どもも少なくない。朝夕ともに「ひとりで」食べる人が多い子どもは10.5%

●中学生になると、「ひとりで」(30.0%)が3割に達し、小学生(9.5%)の3倍以上に

●夕ごはんをひとりで食べる理由は、「塾や習い事に行くから」(94.9%)が圧倒的多数。次いで、「部活やスポーツクラブでおそくなるから」(19.0%)

●ひとりで食べる時の気持ちは「何とも思わない」(40.5%)のほかに、「気楽」(26.6%)、「つまらない」(24.1%)、「さびしい」(12.7%)が並び、感じ方はさまざま

7. 自分の家の夕ごはん、好きな料理・おかず 16

「ハンバーグ」(50件)、「カレーライス」(47件)が特に人気があり、洋食志向が強い。以下、「ギョウザ」(18件)、「スパゲッティ」(16件)、「鶏の唐揚げ」(15件)、「シチュー」(14件)など。

●その料理・おかずを作ったのは、「母親」(91.3%)が圧倒的多数で、やはり“おふくろの味”が一番

8. 1週間に、手作り以外のものが家の夕ごはんに出る回数 18

「1・2回」(38.3%)、あるいは「出ない」(19.3%)が多く、平均は「1.6回/週」。「わからない」という子どもも3割(30.8%)

9. ふだん夕ごはんを食べはじめる時間 19

「7時くらい」(30.0%)が最も多く、以下、「7時30分くらい」(25.3%)、「6時30分くらい」(24.0%)、「6時くらい」(9.3%)、「8時くらい」(4.5%)などの順

●塾に通っている子どもは通っていない子どもよりも遅い

10. 夕ごはんを食べるのにかける時間 20

「30~40分くらい」(39.3%)が最も多く、以下、「20~30分くらい」(35.3%)、「10~20分くらい」(14.3%)、「40~50分くらい」(5.0%)などの順で、平均「29.6分」。「朝ごはん」(平均12.2分)の2倍以上の時間をかけている

II 東京近郊の小中学生400人に聞く 食事の時の行動・習慣

1. 家で食事の時にしていること 21

「家族と話をする」(80.3%)が多く、食事は“家族団らん”の時間。次いで、「テレビを見る」(62.5%)。ただし、「だまっで食べているだけ」(10.8%)の子どももみられる

2. 家で食事の時、家族と話していること 22

「学校で起きたできごと」(74.5%)が最も多く、以下「テレビ番組やタレントのこと」(45.3%)、「友だちのこと」(40.3%)と、子どもの生活まわりの話題が多い。《中学生》になると、「ニュース」(41.5%)にも関心が

3. ふだんの食べ方 23

食事は「おかずとご飯を交互に食べる」(66.3%)という子どもが多いものの、「おかずを一種類ずつ食べる」(19.8%)、「おかずだけ先に食べる」(16.8%)という食べ方も

4. 食事を残すことがあるか.....24

「残すことはない」(51.8%)が半数強で、「いつも残す」(3.5%)あるいは「時々残す」(44.8%)子どもとほぼ半々

5. 食事を残すことについての考え.....25

「作ってくれた人に悪い」(44.3%)、「もったいない」(37.8%)と罪悪感をもつ子どもが多いが、「食べきれない時は仕方がない」(34.3%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(20.3%)など、“仕方がない”と思っている子どもも少なくない

6. 毎日の食事のほかに、おやつなどの間食をどんな時に食べているか.....27

「家で、夕食までのつなぎに」(74.3%)、「友だちと、ファーストフードやお菓子」(33.0%)など、大半の子どもが間食をとっており、「おやつ、間食は食べない」(2.8%)子どもはほとんどいない

7. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか.....28

「母親」(83.3%)、あるいは「父親」(76.8%)と食べる時がトップ。以下、「兄弟」(33.8%)、「友だち」(33.8%)、「姉妹」(32.8%)などの順だが、中には「ひとりで」(4.3%)食べるのが楽しいという子どもも

Ⅲ 東京近郊の小中学生400人に聞く 食との関わり方

1. これまで料理や食べ物、食べ方について、どんな人やどんな方法から学んできたか.....29

「母親」(90.0%)、「父親」(51.5%)が上位を占め、両親の影響が圧倒的に大きい。「先生」(14.3%)、「テレビ番組」(13.3%)、「学校の栄養士」(6.0%)、「きょうだい」(6.0%)などは比較的低率

2. 料理や食べ物、食べ方について知りたいこと、関心のあること.....30

「料理の作り方」(32.8%)、「からだに良い食べ物」(28.5%)、「おいしい食品・店」(27.8%)、「栄養」(21.5%)、「正しい食べ方、マナー」(16.5%)、「安全性」(15.0%)などに関心を持っているが、「特になし」(32.5%)子どもも3割以上を占める

●総じて女子の方が男子より幅広い事柄に興味を示している

3. 「食の安全」ということにどのくらい関心があるか.....31

“関心がある” (51.5%)子どもが、“関心がない” (38.3%)を上回る

●男子より女子の方が、小学生より中学生の方が“関心がある”

●関心がある事柄は、「鳥インフルエンザ」(57.3%)、「BSE(狂牛病)」(54.9%)と、ニュースに取り上げられた事件が1位、2位を占め、以下、「保存期間」(38.3%)、「食品添加物」(35.0%)、「ファーストフードやインスタント食品」(22.8%)、「農薬」(21.8%)などの順

4. 家で、食べ物や食事について守るように言われていること.....34

「食べ物を粗末にしない」(58.3%)が最も多く、以下、「好き嫌いをしない」(51.3%)、「食卓に肘をつかない」(43.0%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(40.5%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(36.8%)などの順

5. はしを正しく持っているか 36

「正しく持っている」のは6割弱(58.0%)で、4割強(42.0%)の子どもは「正しく持っていない」

はしを正しく持ち、「おかずとご飯を交互に食べる」子どもは全体の44.5%

6. 食べ物や食事について、おこなってきたこと 39

「食器を並べる、料理を運ぶ」(57.8%)、「食事後の食器を運ぶ」(49.5%)など、食事のときの手伝いが中心で、「ぶどう、なし、りんごなどをとる」(9.8%)、「いもや竹の子を掘る」(9.5%)など、食べ物を育てたり収穫したりする経験は少ない。

●総じて女子の方が男子より高率

●「食事のしたく」でしていることは、「お米をとぐ」(55.6%)、「野菜などの皮をむく、切る」(53.5%)、「野菜などを洗う」(46.5%)などの料理の下準備から、「ご飯を炊く」「料理を作る」(各43.4%)など実際の調理までさまざま

●「料理を作る」という子どもが作っているのは、「サラダ」(10件)、「味噌汁」(9件)、「カレーライス」(8件)、「卵焼き」(4件)、「チャーハン」(4件)、「ギョウザ」(4件)など

7. 父親が食べ物や食事についておこなっていること 42

「料理を作る」(33.6%)、「なべ物やプレート(鉄板)料理の係り」(25.8%)など、食事を作ることが中心で、3分の2が“何らかのことをしている”(66.7%)

●3種類以上行っている参加度の高い父親は17.7%

●父親の食生活参加度が高い家庭の子どもほど「食の安全」への関心度が高い

IV 東京近郊の小中学生400人に聞く 食と学校生活

1. 学校給食が好きか 44

給食がある(69.0%)子どもの55.1%は給食が「好き」で、「嫌い」(7.2%)な子どもはごく少数

●学校給食について感じていることは「みんなで食べると楽しい」(51.4%)が最も多く、以下、「家で食べないメニューを食べることができる」(42.8%)、「おいしい」(37.0%)、「バラエティに富んでいる」(31.5%)など、好意的な評価がほとんど

2. 給食のメニューで好きな料理、きれいな料理 46

【好きな料理】は、「カレーライス」(51件)が断然トップで、「ラーメン」(20件)が続く。以下、「揚げパン」(16件)、「スパゲッティ」(14件)、「鶏の唐揚げ」(12件)、「スープ」(12件)、「うどん」(11件)などの順

【きれいな料理】は、「魚全般」(21件)や、「ピーマン」(14件)、「野菜全般」(13件)、「サラダ」(12件)、「トマト」(9件)、「にんじん」(7件)などの“野菜”

3. 給食に地元の食べ物や材料が出てくるか 48

「わからない」(59.1%)が6割を占め、食材については特に意識していない子どもが多い。「出る」と認識している子どもは3割弱(28.6%)

●具体的には、「野菜」(41件)、「にんじん」(11件)、「大根」(9件)、「キュウリ」(8件)、「トマト」(6件)と“野菜”がほとんど。野菜以外では「米」(5件)、「牛乳」(2件)など

4. 学校で、「食」について教わった内容.....50

「お米の作り方」(42.3%)と「栄養」(40.8%)が多く、以下、「野菜の作り方」(32.5%)、「海外各地の食料不足、飢餓」(25.5%)、「料理の作り方」(25.3%)、「食の安全」(22.0%)などの順

5. 学校でお米や野菜を育てたことはあるか.....51

6割強の子どもがお米や野菜を育てたことが「ある」(62.3%)

●育てたことがあるのは、「米」(99件)が最も多く、以下「トマト」(83件)、「キュウリ」(34件)、「ナス」(33件)、「ミニトマト」(27件)、「サツマイモ」(22件)などさまざま

●お米や野菜を育てた感想は、「楽しい」(37.3%)が最も多いが、「むずかしい」(35.3%)、「たいへん」(32.1%)と農作業の苦勞も感じ取っている

●育てたことが「ない」子どものうち、今後育ててみたいと「思う」子どもは43.0%

調査企画

1. 調査目的

昨年、母親を対象に行った『世代をつなぐ食^(注)』に関する調査の結果をふまえ、今回は子ども世代を対象に、食をとりまく状況について聞き、食育などを通して世代間の継承がどうなされているかを探ることを目的に実施しました。

(注) 首都20km～50kmのドーナツ圏に居住し、子どもを持つ30歳～59歳の主婦を対象に、2003年11月20日～12月2日実施、有効回収数400サンプル。2004年2月発表。

2. 調査対象

首都20km～50kmのドーナツ圏に居住する、小学校4年生～中学校3年生の男女

3. 調査対象の抽出方法

調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する該当条件の男女を調査対象とするエリアサンプリング法

4. 調査方法

調査票を用いた直接面接法

5. 調査期間

2004年11月25日～12月6日

6. 標本構成

F1. 学年

サンプル数	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
400	66	67	67	67	67	66
100.0	16.5	16.8	16.8	16.8	16.8	16.5

F2. 性別

サンプル数	男子	女子
400	200	200
100.0	50.0	50.0

F3. 同居している家族（複数回答）

サンプル数	父親	母親	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他の人
400	396	400	96	114	102	83	23	47	2
100.0	99.0	100.0	24.0	28.5	25.5	20.8	5.8	11.8	0.5

F4. 同居家族人数(自分も含む) (平均:4.2人)

サンプル数	2人	3人	4人	5人	6人以上
400	1	59	219	93	28
100.0	0.3	14.8	54.8	23.3	7.0

F5. 塾に通っているか

サンプル数	通っている	通っていない
400	232	168
100.0	58.0	42.0

F6-1. 身長 (平均:151.9cm)

サンプル数	140cm未満	140~145cm未満	145~150cm未満	150~155cm未満	155~160cm未満	160~165cm未満	165cm以上
400	58	41	47	77	72	58	47
100.0	14.5	10.3	11.8	19.3	18.0	14.5	11.8

F6-2. 体重 (平均:43.3kg)

サンプル数	35Kg未満	35~40Kg未満	40~45Kg未満	45~50Kg未満	50~55Kg未満	55Kg以上
400	63	61	84	93	71	28
100.0	15.8	15.3	21.0	23.3	17.8	7.0

F6-3. 肥満度(標準体重による) (平均:-3.0%)

サンプル数	やせ	標準	太り気味・肥満
400	79	296	25
100.0	19.8	74.0	6.3

調査結果の内容

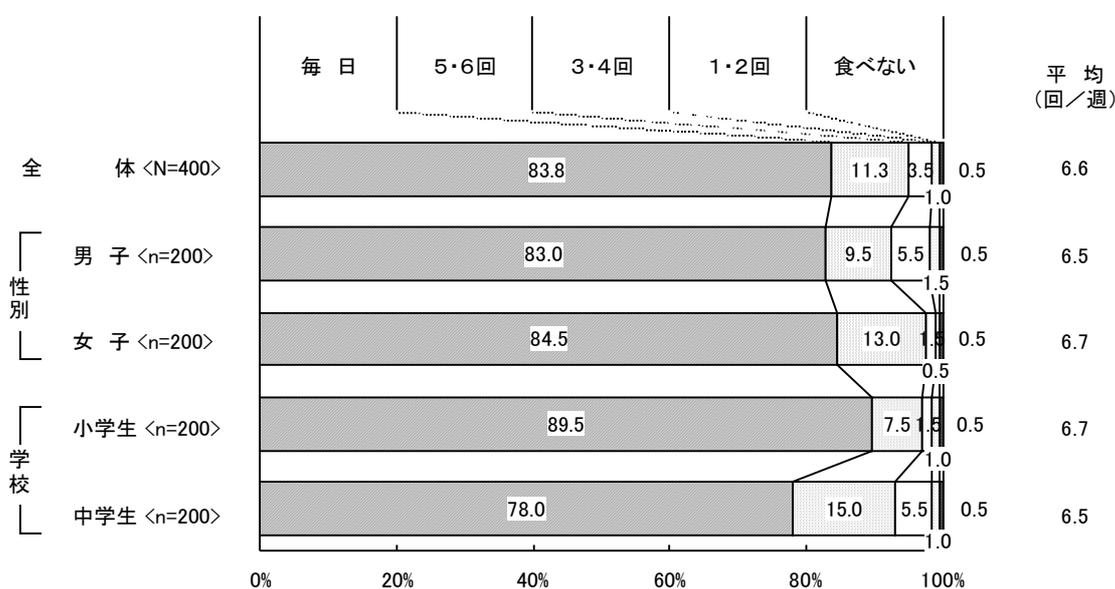
1. 1週間に、家で「朝ごはん」を食べる回数

ほとんどの子どもは「毎日」(83.8%)朝ごはんを食べている。平均 6.6 回/週

●中学生になると、家で「毎日」食べる子どもが減少

●朝ごはんを家で食べない日がある理由は、「起きるのがおそいから」(76.9%)が圧倒的に多い。以下、「食欲がないから」(32.3%)、「朝ごはんがないので」(6.2%)、「外で食べるから」(6.2%)など

図 1. 1週間に、家で「朝ごはん」を食べる回数

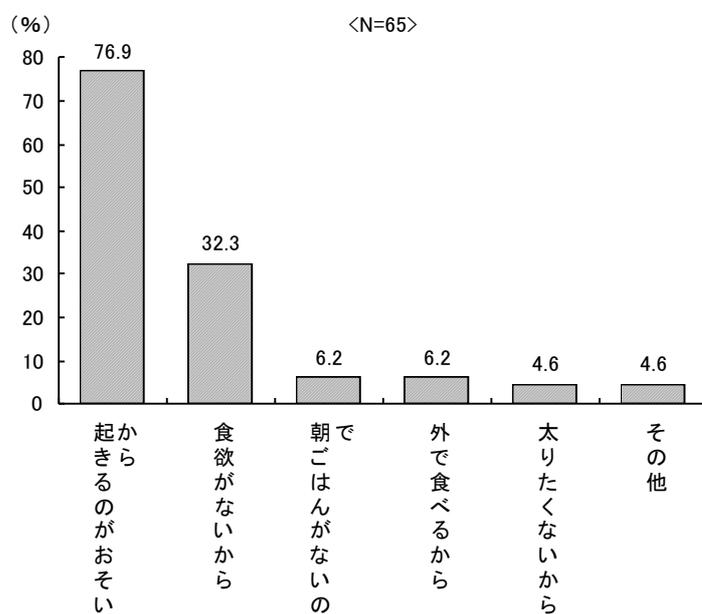


1週間に、家で「朝ごはん」を食べる回数を聞いたところ、「毎日」(83.8%)食べる子どもが圧倒的に多く、以下、「5・6回」(11.3%)、「3・4回」(3.5%)などの順で、平均は「6.6回/週」となっています。大人になると朝ごはんを食べない人もみられますが、子どものうちはほとんどが毎日家で朝ごはんを食べており、大人より健康的な食生活を送っているといえそうです。

性別にみると、いずれも「毎日」(男子 83.0%、女子 84.5%)という子どもがほとんどで、あまり大きな差はありませんが、家で朝ごはんを食べる回数は《女子》の方が若干多くなっています。

学校別にみると、やはりいずれも「毎日」食べる子どもが多数を占めていますが、《小学生》(89.5%)に比べると《中学生》(78.0%)では10ポイント以上低くなっています。年齢が上がるにつれ、朝ごはんを食べないケースが増えていくようです。

図 2. 朝ごはんを家で食べない日がある理由（複数回答）



朝ごはんを食べない日がある子どもにその理由を複数回答で聞いたところ、「起きるのがおそいから」（76.9%）が4分の3強を占めて最も多く、「食欲がないから」（32.3%）が3割強で次いでいます。そのほかはあまり多くありませんが、「朝ごはんがないので」（6.2%）、「外で食べるから」（6.2%）、「太りたくないから」（4.6%）などの順となっています。

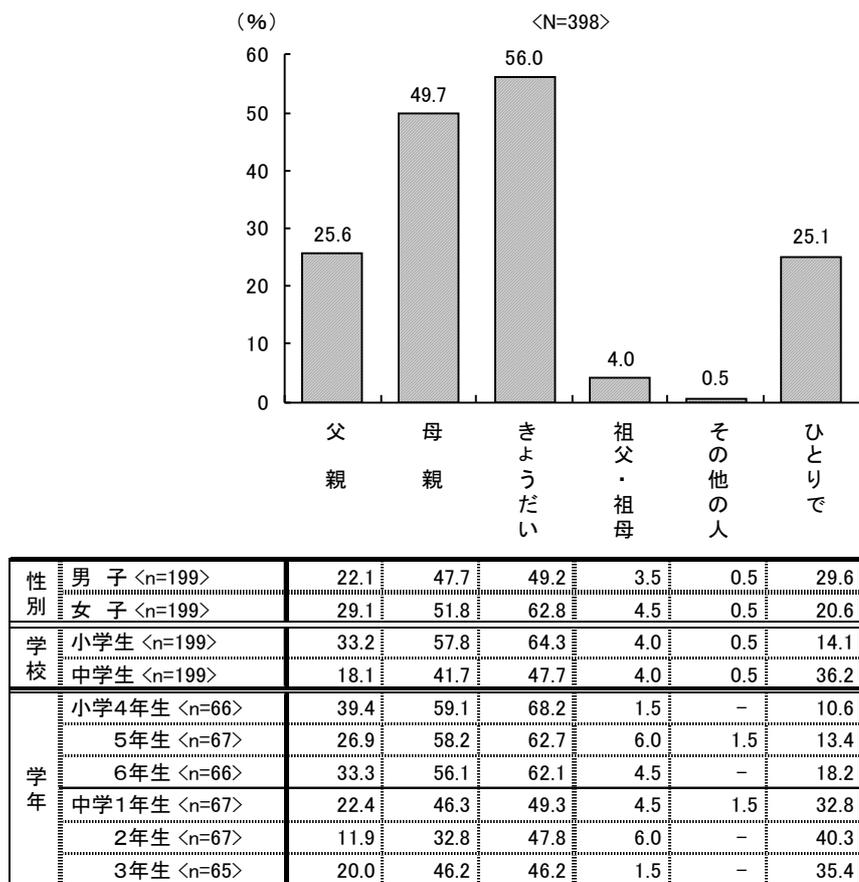
2. 一緒に朝ごはんを食べることが多い人

「きょうだい」(56.0%)や「母親」(49.7%)と食べることが多く、「父親」(25.6%)とはあまり食べていない。「ひとりで」(25.1%)という子どもも4人に1人

●中学生になると「ひとりで」(36.2%)食べる子どもが、小学生(14.1%)の倍に

●ひとりで食べることが多い理由は、「家を出るのが家族より早いから」(53.0%)が最も多く、以下、「家を出るのが家族よりおそいから」(28.0%)、「いつもみんな好きな時に食べているから」(17.0%)など

図 3. 一緒に朝ごはんを食べることが多い人 (複数回答)



朝ごはんは誰と一緒に食べる人が多いのかを複数回答で聞いてみました。

最も多いのは「きょうだい」(56.0%)で、続く「母親」(49.7%)と共に半数前後が回答しています。それに比べると「父親」(25.6%)は低率です。また、「ひとりで」(25.1%)食べる人が多いという子どもも4人に1人みられます。家族揃って朝ごはんを食べるのが理想的だといわれますが、現実には難しいようです。

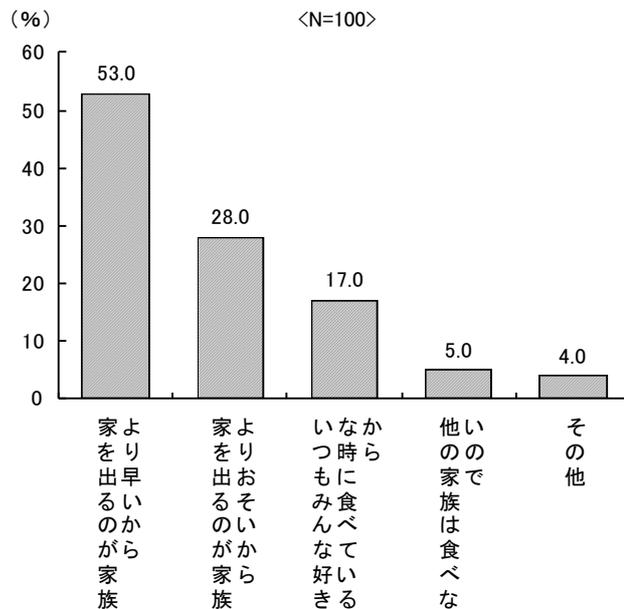
性別にみると、《男子》より《女子》の方が「きょうだい」と一緒に食べる人が多い(男子49.2%、女子62.8%)、《男子》は「ひとりで」食べる人が《女子》より少し多くなっています(男子29.6%、女子20.6%)。

学校別にみると、総じて《小学生》の方が家族と一緒に食べる事が多く、逆に《中学生》は「ひとりで」(36.2%)食べる率が《小学生》(14.1%)より20ポイント以上高くなっています。前項でみたように、小学生よりも中学生の方が家で朝ごはんを食べる頻度は低く、食べる時も1人で食べる事が増えており、朝の食事環境は年齢が上がるとともに悪化しているようです。

【前回との比較】

ちなみに、前回(2003年11月)、子どものいる主婦400人に『家庭で、家族全員が揃って朝ごはんをとる回数』をたずねた時は、「ほとんどない」が3割強(31.5%)で最も多く、平均「2.2回/週」となっていました。一緒に朝ごはんを食べる人が誰かしらいても、家族全員で食べることは多くありません。

図 4. 朝ごはんをひとりで食べる理由(複数回答)



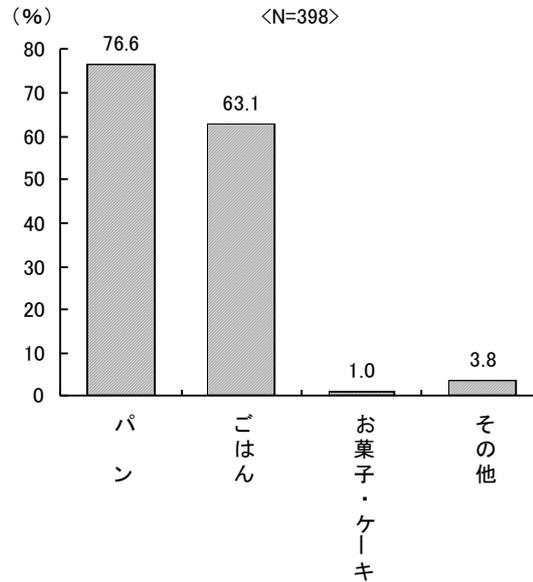
朝ごはんをひとりで食べる事が多い子どもにその理由を複数回答で聞いたところ、「家を出るのが家族より早いから」(53.0%)が半数強で最も多くなっています。以下、「家を出るのが家族よりおそいから」(28.0%)、「いつもみんな好きな時に食べているから」(17.0%)、「他の家族は食べないので」(5.0%)などの順で続き、家族それぞれが自分のペースで朝を過ごしている家庭が多いようです。

なお、《中学生》は「家を出るのが家族より早いから」(59.7%)に一層集中しています。

3. ふだん、朝ごはんに食べているもの

朝ごはんは、「ごはん」(63.1%)よりも「パン」(76.6%)

図 5. ふだん、朝ごはんに食べているもの (複数回答)



性別	男子 <n=199>	75.4	64.8	1.0	4.0
	女子 <n=199>	77.9	61.3	1.0	3.5
学校	小学生 <n=199>	75.9	65.3	0.5	4.5
	中学生 <n=199>	77.4	60.8	1.5	3.0

ふだん朝ごはんに食べているものを複数回答で聞いたところ、「パン」(76.6%)を食べている子どもが4分の3以上と多く、「ごはん」(63.1%)を10ポイントほど上回っています。時間のない朝は手軽なパン食がやや多いようです。「お菓子・ケーキ」(1.0%)との回答はほとんどみられません。

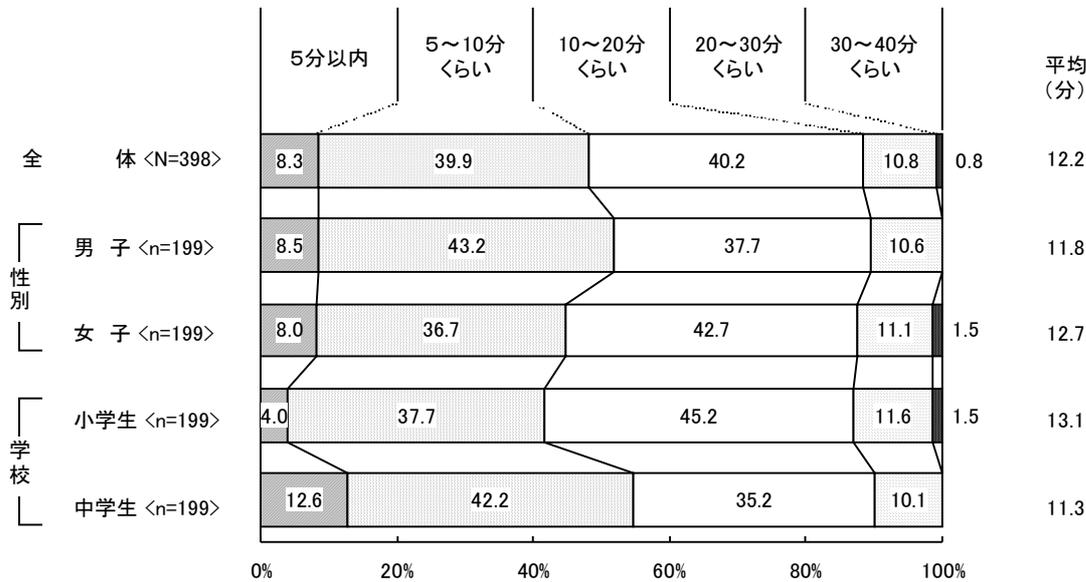
性別や学校別による差はほとんどありません。

同居家族人数別にみると、同居している人数が増えるほど「ごはん」を食べる率が、《2～3人》(51.7%)、《4人》(63.3%)、《5人以上》(68.3%)と、高くなっています。

4. 朝ごはんを食べるのにかける時間

「10～20分くらい」(40.2%)が最も多く、「5～10分くらい」(39.9%)もほぼ同率で続く。以下、「20～30分くらい」(10.8%)、「5分以内」(8.3%)などの順で、平均は「12.2分」

図 6. 朝ごはんを食べるのにかける時間



それでは、子どもたちは朝ごはんを食べるのにどのくらい時間をかけているのでしょうか。

「10～20分くらい」(40.2%)が4割強で最も多くなっていますが、「5～10分くらい」(39.9%)もほぼ同率で続いており、「5分～20分」に約8割(80.2%)が入っています。以下、「20～30分くらい」(10.8%)、「5分以内」(8.3%)などの順で、平均は「12.2分」となっています。

性別にみると、平均時間は《男子》(11.8分)の方が《女子》(12.7分)より1分ほど短くなっています。

学校別にみると、《中学生》(11.3分)は《小学生》(13.1分)より2分近く短くなっています。先にみたように、小学生より中学生の方が朝ごはんを食べる頻度が低く、また1人で食べるが多くなっていますが、食事時間も短くなっており、年齢とともに朝食をおろそかにする傾向が出てきていることがうかがえます。

なお、「ごはん」を食べる子どもは、朝食にかける時間別にみると、《10分以内》(42.2%)、《10～20分くらい》(80.6%)、《20分以上》(89.1%)と、ゆっくり食べる子どもほど比率が高くなっています。

【前回との比較】

前回、子どものいる主婦400人に『家庭で、ふだん家族全員が揃って朝ごはんを食べる時間』を聞いた時は、平均は「20.9分」となっており、今回の調査結果(12.2分)の方がかなり短くなっています。これは“家族揃って”食事をするケースが少ないためと考えられます。

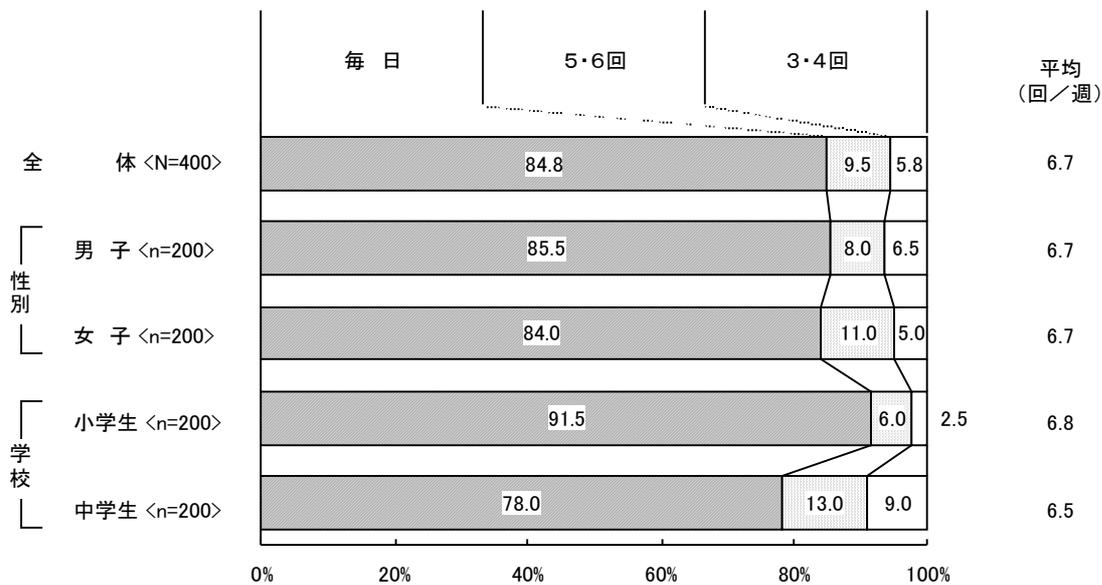
5. 1週間に、家で「夕ごはん」を食べる回数

「毎日」(84.8%)が圧倒的多数。以下、「5・6回」(9.5%)、「3・4回」(5.8%)の順で、平均は「6.7回／週」と、朝ごはんとはほぼ同じ回数

●中学生は「毎日」(78.0%)が、小学生(91.5%)に比べ低率

●夕ごはんを家で食べない理由は、「塾や習い事があるから」(85.2%)が圧倒的多数。次いで「外で食べるから」(23.0%)、「食欲がないから」(4.9%)などの順

図 7. 1週間に、家で「夕ごはん」を食べる回数

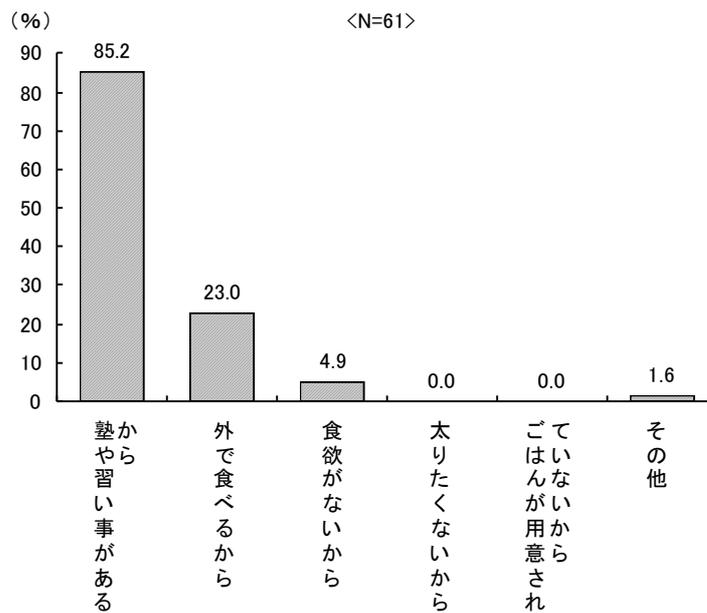


次に、1週間に家で「夕ごはん」を食べる回数をみると、「毎日」(84.8%)が8割以上で圧倒的に多く、以下、「5・6回」(9.5%)、「3・4回」(5.8%)の順となっており、平均は「6.7回／週」です。これは、先にみた「朝ごはん」とほぼ同様の結果です。

性別ではほとんど差がありませんが、学校別では「朝ごはん」の場合と同様の傾向がみられ、「毎日」食べる割合は《小学生》(91.5%)では9割を超えているのに対し、《中学生》(78.0%)では8割を切っています。

塾に通っているか否かでみると、「毎日」食べる割合は、塾に《通っていない》(95.8%)子どもの方が、《通っている》(76.7%)子どもより20ポイント近く高くなっており、塾に行くために家で夕ごはんを食べられないことが少なくないことがうかがえます。

図 8. タごはんを家で食べない日がある理由（複数回答）



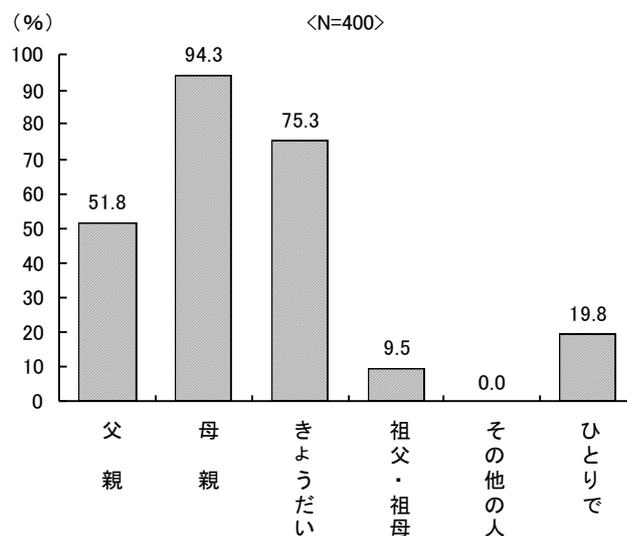
タごはんを家で食べない日がある子どもにその理由を複数回答で聞いたところ、「塾や習い事があるから」(85.2%)を8割以上があげており、小中学生の“多忙さ”がうかがえます。以下、「外で食べるから」(23.0%)、「食欲がないから」(4.9%)などの順となっています。

6. 一緒に夕ごはんを食べることが多い人

「母親」(94.3%)をはじめ、「きょうだい」(75.3%)、「父親」(51.8%)など、朝ごはんに比べて家族と一緒に食べる人が多いが、「ひとりで」(19.8%)という子どもも少なくない。朝夕ともに「ひとりで」食べる人が多い子どもは10.5%

- 中学生になると、「ひとりで」(30.0%)が3割に達し、小学生(9.5%)の3倍以上に
- 夕ごはんをひとりで食べる理由は、「塾や習い事に行くから」(94.9%)が圧倒的多数。次いで、「部活やスポーツクラブでおそくなるから」(19.0%)
- ひとりで食べる時の気持ちは「何とも思わない」(40.5%)のほかに、「気楽」(26.6%)、「つまらない」(24.1%)、「さびしい」(12.7%)が並び、感じ方はさまざま

図 9. 一緒に夕ごはんを食べることが多い人 (複数回答)



性別	男子 <n=200>	46.5	92.5	71.0	9.5	-	21.0
性別	女子 <n=200>	57.0	96.0	79.5	9.5	-	18.5
学校	小学生 <n=200>	54.5	97.0	78.0	9.0	-	9.5
	中学生 <n=200>	49.0	91.5	72.5	10.0	-	30.0
学年	小学4年生 <n=66>	65.2	97.0	81.8	6.1	-	4.5
	5年生 <n=67>	52.2	100.0	73.1	11.9	-	6.0
	6年生 <n=67>	46.3	94.0	79.1	9.0	-	17.9
	中学1年生 <n=67>	53.7	92.5	71.6	13.4	-	13.4
	2年生 <n=67>	53.7	94.0	79.1	13.4	-	31.3
	3年生 <n=66>	39.4	87.9	66.7	3.0	-	45.5

夕ごはんは誰と一緒に食べる人が多いかをみると、「母親」(94.3%)をほとんどの子どもがあげています。以下、「きょうだい」(75.3%)、「父親」(51.8%)が続き、朝ごはんに比べて家族と一緒に食べるのがかなり多くなっています。しかし、「ひとりで」(19.8%)食べる人が多いという子どもも少なくないのが気になるところです。

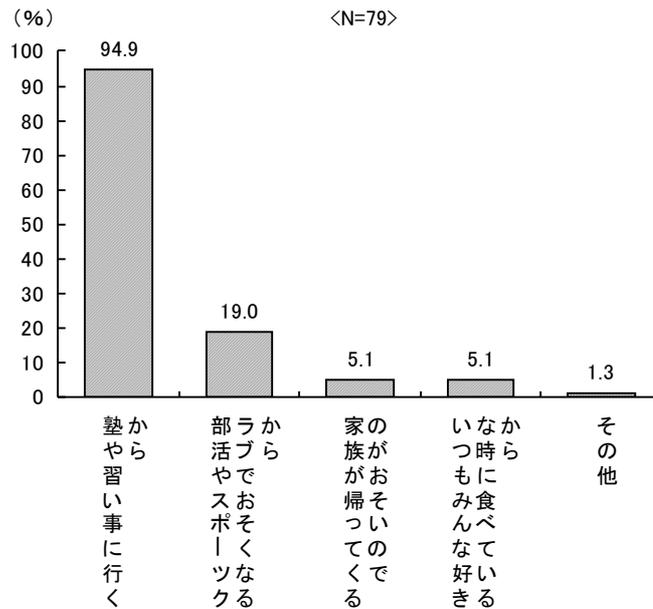
性別にみると、「女子」の方が「男子」に比べて家族と一緒に夕ごはんを食べることが多くなっています。

学校別にみると、総じて《小学生》の方が家族と一緒に食べている割合が高く、《中学生》になると「ひとりで」(30.0%)食べる人が多い子どもが《小学生》(9.5%)の3倍以上になり、《中学3年生》では半数近く(45.5%)に達しています。

【前回との比較】

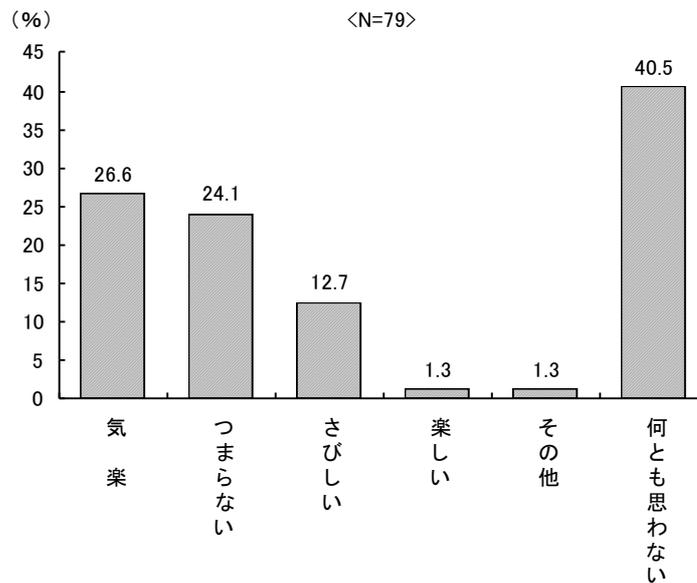
前回、子どものいる主婦400人に『家庭で、家族全員が揃って夕ごはんをとる回数』を聞いた時の結果をみると、「2～3回」(37.5%)が最も多く、平均「3.3回/週」でした。家族全員で食べることはそれ程多くないようです。

図 10. 夕ごはんをひとりで食べる理由 (複数回答)



夕ごはんをひとりで食べる理由を聞いたところ、家で食べない理由と同様に「塾や習い事に行くから」(94.9%)が圧倒的多数となっています。以下、「部活やスポーツクラブでおそくなるから」(19.0%)、「家族が帰ってくるのがおそいで」(5.1%)、「いつもみんな好きな時に食べているから」(5.1%)などの順で、夜も家族の生活パターンの違いから、夕ごはんを一緒に食べる習慣が薄れてきているのかも知れません。

図 11. タごはんをひとりで食べる時の気持ち（複数回答）



次に、タごはんをひとりで食べる時はどのような気持ちなのかをたずねました。

「何とも思わない」が4割（40.5%）を占めており、そのほかでは「気楽」（26.6%）と受け入れている子どももいますが、「つまらない」（24.1%）、「さびしい」（12.7%）と、否定的に考えている子どもも多く、とらえ方はさまざまとなっています。

なお、朝夕ともに「ひとりで」食べることが多いこどもが、全体の10.5%みられます。この子どもたちは、後述の「はしを正しく持っている」（45.2%）率が、それ以外の誰かと食べることが多い子ども（59.5%）に比べて低くなっています。ふだんの食べ方も「おかずとご飯を交互に食べる」（順に54.8%、67.6%）が低く、「おかずを一種類ずつ食べる」（同 31.0%、18.4%）が高いなど、正しい食習慣やマナーを身に付けるという点で違いが生じています。家族とともに食べることで学ぶという機会が少ないためでしょう。

7. 自分の家の夕ごはんで、好きな料理・おかず

「ハンバーグ」(50件)、「カレーライス」(47件)が特に人気があり、洋食志向が強い。以下、「ギョウザ」(18件)、「スパゲッティ」(16件)、「鶏の唐揚げ」(15件)、「シチュー」(14件)など。

●その料理・おかずを作ったのは、「母親」(91.3%)が圧倒的多数で、やはり“おふくろの味”が一番

表 1. 自分の家の夕ごはんで、好きな料理・おかず (自由回答：ベスト15)

順位		件数	男子	女子
1	ハンバーグ	50	33	17
2	カレーライス	47	30	17
3	ギョウザ	18	7	11
4	スパゲッティ	16	6	10
5	鶏の唐揚げ	15	6	9
6	シチュー	14	4	10
7	焼き肉	13	11	2
8	コロッケ	11	7	4
	ステーキ	11	7	4
10	肉じゃが	10	5	5
11	トンカツ	9	7	2
	ラーメン	9	5	4
	グラタン	9	2	7
14	天ぷら	8	2	6
15	すき焼き	7	5	2
	ロールキャベツ	7	4	3
	刺身	7	5	2

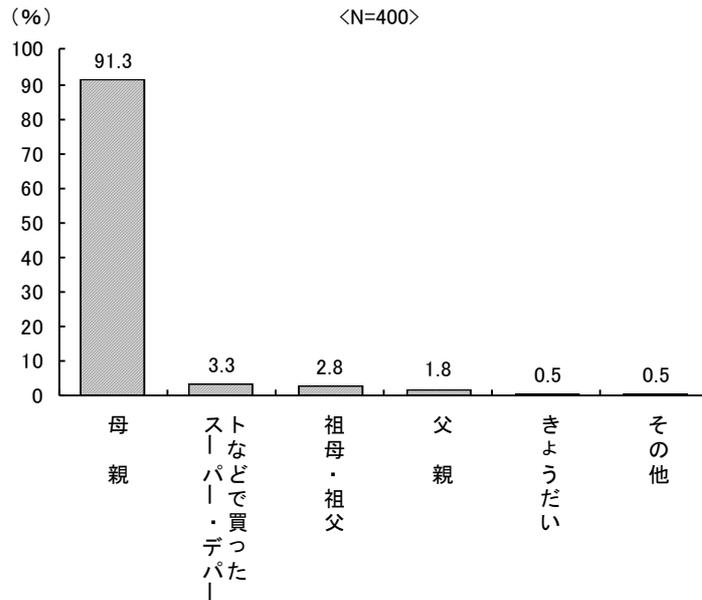
自分の家の夕ごはんで、好きな料理・おかずは何か、自由回答であげてもらったところ、「ハンバーグ」が50件でトップ、次いで「カレーライス」(47件)もそれに近い数の子どもがあげています。子どもたちには洋食の人気が高いようです。以下、「ギョウザ」(18件)、「スパゲッティ」(16件)、「鶏の唐揚げ」(15件)、「シチュー」(14件)、「焼き肉」(13件)、「コロッケ」(11件)、「ステーキ」(11件)など、肉料理や油を使った料理が続いています。

性別にみると、《男子》は1位、2位の「ハンバーグ」「カレーライス」(順に33件、30件)が特に多く、《女子》(ともに17件)の2倍近い数に達しています。また、《男子》は「焼き肉」(11件)も多くなっていますが、「ギョウザ」(男子7件、女子11件)、「スパゲッティ」(同6件、10件)、「シチュー」(同4件、10件)などは《女子》の方が多くあげており、《女子》の方が好きな料理・おかずはバラエティに富んでいるようです。

【前回との比較】

前回『「我が家の味」といえばどんな料理か』の質問に回答としてあげられたものをみると、「野菜の煮物」（43件）、「ギョウザ」（42件）、「肉じゃが」（34件）、「カレーライス」（30件）が上位となっており、ギョウザ、カレーライスが親子共通の定番メニューであるのに対し、煮物類は子ども世代にそれほど好まれていないようです。

図 12. 家の夕ごはんでは好きな料理やおかずを作った人、購入先



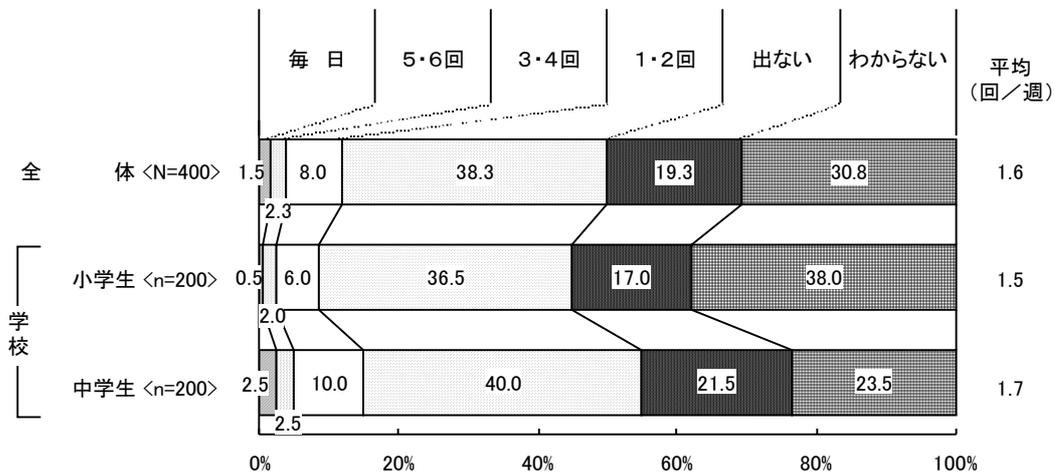
家の夕ごはんでは好きな料理やおかずは誰が作ったものなのでしょうか。また、どこで買ってきたものなのでしょうか。

やはり「母親」（91.3%）が作った、という回答が圧倒的に多く、今でも“おふくろの味”は健在のようです。それ以外の回答はいずれもわずかで、「父親」（1.8%）の手料理も母親に比べるとかなり存在感が薄くなっています。

8. 1週間に、手作り以外のものが家の夕ごはんに出る回数

「1・2回」(38.3%)、あるいは「出ない」(19.3%)が多く、平均は「1.6回/週」。「わからない」という子どもも3割(30.8%)

図 13. 1週間に、手作り以外のものが家の夕ごはんに出る回数



「スーパー・デパートなどで買ったおかず」や「冷凍食品」など、手作り以外のものが夕ごはんに出る回数を聞いたところ、「わからない」(30.8%)が3割を占め、家で料理した食べ物かどうかを意識していない子どもも多いようです。具体的な回数をあげた回答としては、「1・2回」(38.3%)が約4割で最も多く、次いで「出ない」(19.3%)が続き、平均は「1.6回/週」となっています。中には「5・6回」(2.3%)、「毎日」(1.5%)と、出来合いの料理に頼っている家庭も、わずかながらみられます。

性別にみると、《男子》は「わからない」(35.5%)が《女子》(26.0%)に比べて多くなっていますが、出る回数は男女でほとんど変わりません。

学校別にみると、《中学生》になると《小学生》と比べ「分からない」(小学生38.0%、中学生23.5%)の回答が大きく減っています。

祖父母との同居別にみると、平均は《非同居》(1.6回/週)の方が《同居》(1.2回/週)より多くなっており、同居の祖父母がいることによって、手作りの夕食を出す傾向が高まるようです。

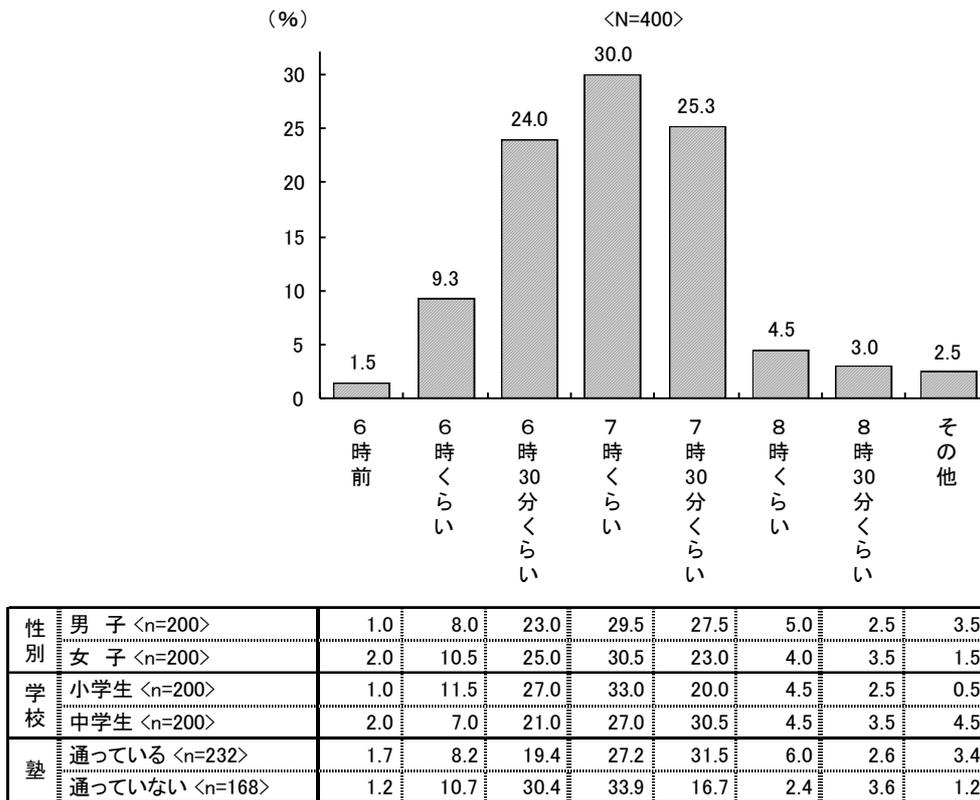
なお、サンプル数は少ないのですが、《太り気味・肥満》(1.8回/週)の子どもの家庭は、《標準》(1.6回/週)《やせ》(1.5回/週)に比べて、手作り以外のものが夕ごはんに出る頻度がやや高いようです。

9. ふだんタごはんを食べはじめる時間

「7時くらい」(30.0%)が最も多く、以下、「7時30分くらい」(25.3%)、「6時30分くらい」(24.0%)、「6時くらい」(9.3%)、「8時くらい」(4.5%)などの順

●塾に通っている子どもは通っていない子どもよりも遅い

図 14. ふだんタごはんを食べはじめる時間



ふだんタごはんを食べはじめる時間は、「7時くらい」(30.0%)が最も多く、以下、「7時30分くらい」(25.3%)、「6時30分くらい」(24.0%)、「6時くらい」(9.3%)、「8時くらい」(4.5%)などの順となっており、6時30分から7時30分の間に約8割(79.3%)が集まっています。

性別ではほとんど差がありませんが、学校別にみると、「中学生」は「7時30分くらい」(30.5%)が《小学生》(20.0%)より高く、学年が上がるほど夕食の時間はおそくなっています。

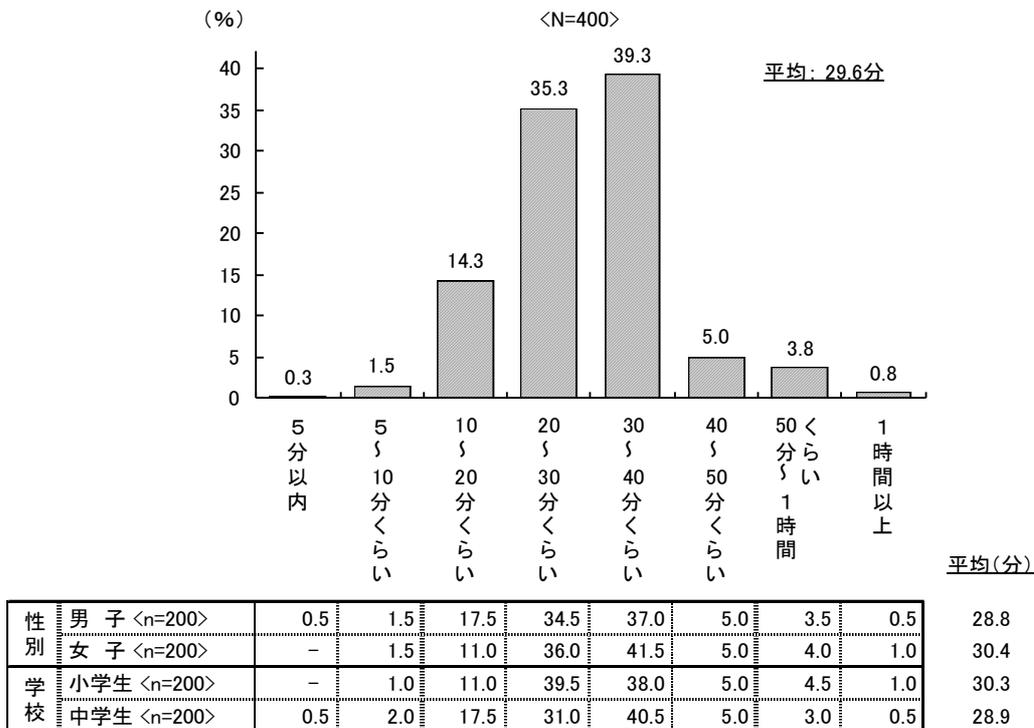
塾に通っているか否か別にみると、総じて《通っている》子どもの方が《通っていない》子よりも遅い時間に食べ始めているようです。塾から帰ってから夕食を取るため、どうしてもおそい時間になるのでしょう。

また、祖父母と《同居》している家庭では、「7時前(6時30分くらいまで)」(56.0%)が半数以上を占めていますが、《非同居》では31.7%にとどまっています。

10. タごはんを食べるのにかける時間

「30～40 分くらい」(39.3%)が最も多く、以下、「20～30 分くらい」(35.3%)、「10～20 分くらい」(14.3%)、「40～50 分くらい」(5.0%)などの順で、平均「29.6分」。“朝ごはん”(平均 12.2分)の2倍以上の時間をかけている

図 15. タごはんを食べるのにかける時間



次に、タごはんを食べるのにどのくらい時間をかけているかをみると、「30～40分くらい」(39.3%)が約4割で最も多く、続く「20～30分くらい」(35.3%)と合わせると約4分の3(74.5%)が20分から40分で食べていることとなります。以下、「10～20分くらい」(14.3%)などの順で、平均「29.6分」となっています。これは、先にみた“朝ごはんを食べるのにかけている時間”(平均12.2分)の2倍以上の時間となっており、忙しい朝と違ってゆっくり食事を楽しんでいる様子が見えます。

性別にみると、平均時間は《女子》(30.4分)の方が《男子》(28.8分)よりやや長くなっています。

学校別にみると、《小学生》(30.3分)の方が《中学生》(28.9分)より若干長くなっています。

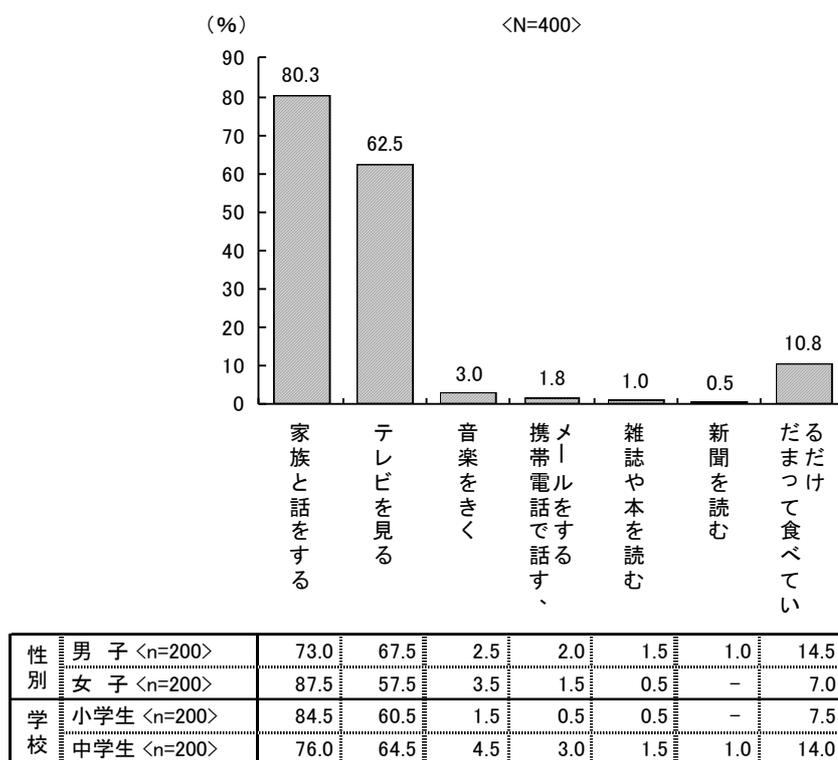
【前回との比較】

前回、子どものいる主婦400人に『家庭で、ふだん家族全員が揃ってタごはんを食べる時間』を聞いた時は、平均は「45.7分」となっており、子どもの平均時間の方が15分ほど短くなっています。家族そろって食べる時は、より時間をかけるようです。

1. 家で食事の時にしていること

「家族と話をする」(80.3%)が多く、食事は“家族団らん”の時間。次いで、「テレビを見る」(62.5%)。ただし、「だまって食べているだけ」(10.8%)の子どももみられる

図 16. 家で食事の時にしていること（複数回答）



まず、家で食事の時にどのようなことをしているかを聞いたところ、「家族と話をする」(80.3%)を8割強があげ、家での食事を“家族団らん”の時間として過ごしている子どもが多数を占めています。そのほかでは、「テレビを見る」(62.5%)がほとんどで、それ以外の回答はいずれも少数ですが、「だまって食べているだけ」(10.8%)の子どもが1割を超えており、“団らん”とはほど遠い状況で夕食を食べている子どももみられます。

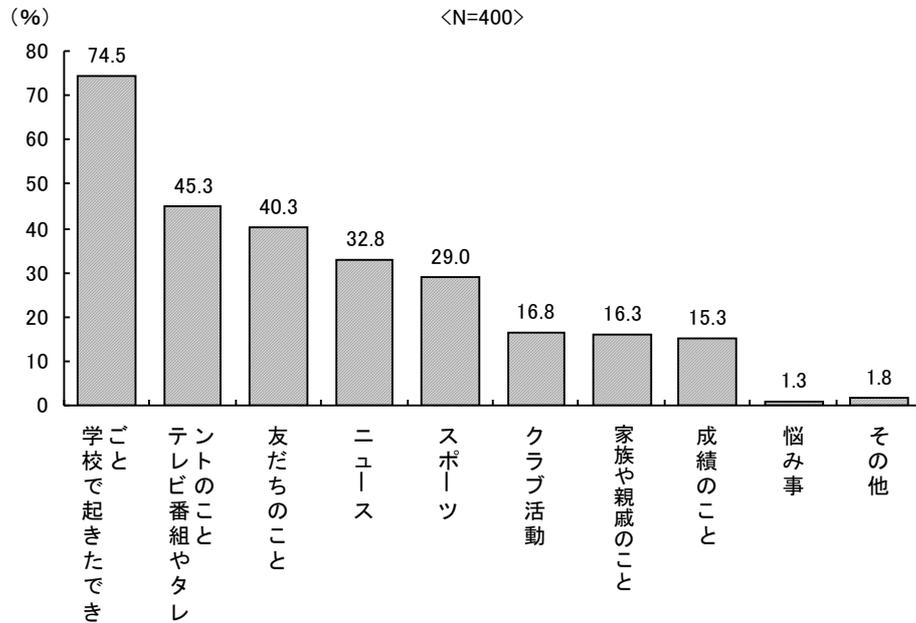
性別にみると、「家族と話をする」割合は《女子》(87.5%)の方が《男子》(73.0%)よりも高く、一方《男子》は「テレビを見る」(男子 67.5%、女子 57.5%)、「だまって食べているだけ」(男子 14.5%、女子 7.0%)のことも多いようです。

学校別にみると、《小学生》は「家族と話をする」(84.5%)が、《中学生》(76.0%)より高く、《中学生》になると「だまって食べているだけ」(14.0%)が《小学生》(7.5%)の2倍近くになります。特に《男子中学生》では「家族と話をする」(67.0%)が低く、「だまって食べているだけ」(18.0%)が高いのが目立ちます。

2. 家で食事の時、家族と話していること

「学校で起きたできごと」(74.5%)が最も多く、以下「テレビ番組やタレントのこと」(45.3%)、「友だちのこと」(40.3%)と、子どもの生活まわりの話題が多い。《中学生》になると、「ニュース」(41.5%)にも関心が

図 17. 家で食事の時、家族と話していること（複数回答）



性別	男子 <n=200>	68.5	46.0	31.0	34.0	43.0	16.5	11.0	11.0	0.5	0.5
	女子 <n=200>	80.5	44.5	49.5	31.5	15.0	17.0	21.5	19.5	2.0	3.0
学校	小学生 <n=200>	80.5	41.0	44.0	24.0	32.0	10.0	14.5	11.5	2.0	1.0
	中学生 <n=200>	68.5	49.5	36.5	41.5	26.0	23.5	18.0	19.0	0.5	2.5

次に、家で食事の時、家族とどのようなことを話しているかを聞いてみました。

「学校で起きたできごと」(74.5%)が最も多く、ほぼ4分の3が上げています。そのほか「テレビ番組やタレントのこと」(45.3%)、「友だちのこと」(40.3%)が上位にあげられており、学校生活やテレビの内容が話題の中心のようです。以下、「ニュース」(32.8%)、「スポーツ」(29.0%)、「クラブ活動」(16.8%)、「家族や親戚のこと」(16.3%)、「成績のこと」(15.3%)などが続き、「悩み事」(1.3%)はごく少数になっています。

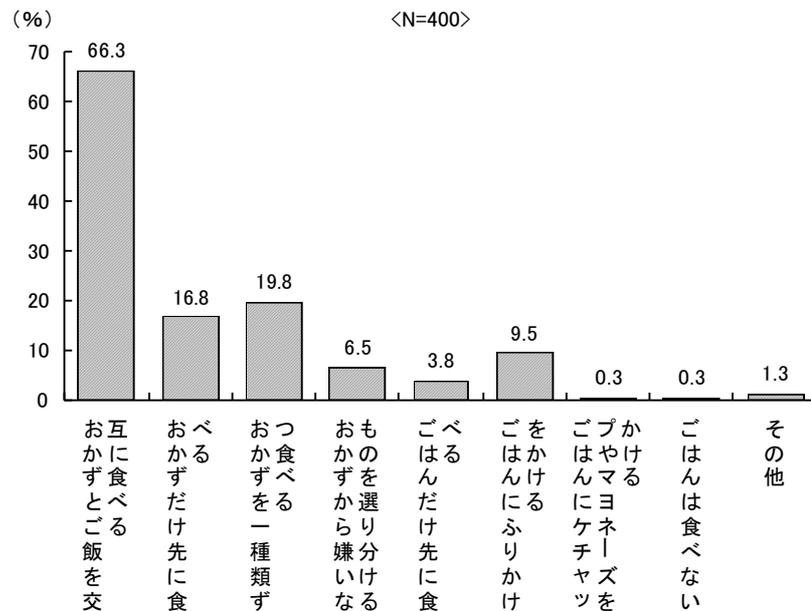
性別にみると、《女子》は「学校で起きたできごと」「友だちのこと」「家族や親戚のこと」の3項目が《男子》よりも高く、総じて《女子》の方がいろいろなことを話題にしています。一方、《男子》では「スポーツ」(43.0%)を話題にすることが多く、《女子》(15.0%)との差が目立ちます。

学校別にみると、《小学生》は「学校で起きたできごと」(80.5%)や「友だちのこと」(44.0%)など学校生活に関する話をよくしています。《中学生》になると「ニュース」(41.5%)が高くなり、社会の出来事への関心が高まることがうかがえます。また、「クラブ活動」も《中学生》(23.5%)の方が高く、学校生活において“部活”が重要な位置を占めているようです。

3. ふだんの食べ方

食事は「おかずとご飯を交互に食べる」(66.3%)という子どもが多いものの、「おかずを一種類ずつ食べる」(19.8%)、「おかずだけ先に食べる」(16.8%)という食べ方も

図 18. ふだんの食べ方 (複数回答)



性別	男子 <n=200>	61.5	18.5	24.0	6.0	2.0	8.5	0.5	-	2.0
	女子 <n=200>	71.0	15.0	15.5	7.0	5.5	10.5	-	0.5	0.5
学校	小学生 <n=200>	59.5	22.0	21.0	6.0	5.0	10.0	0.5	-	2.0
	中学生 <n=200>	73.0	11.5	18.5	7.0	2.5	9.0	-	0.5	0.5

ふだん、ご飯とおかずをどのように食べているのでしょうか。

「おかずとご飯を交互に食べる」(66.3%)を3人に2人があげており、最もふつうの食べ方となっています。そのほか、「おかずを一種類ずつ食べる」(19.8%)、「おかずだけ先に食べる」(16.8%)といった食べ方もみられます。

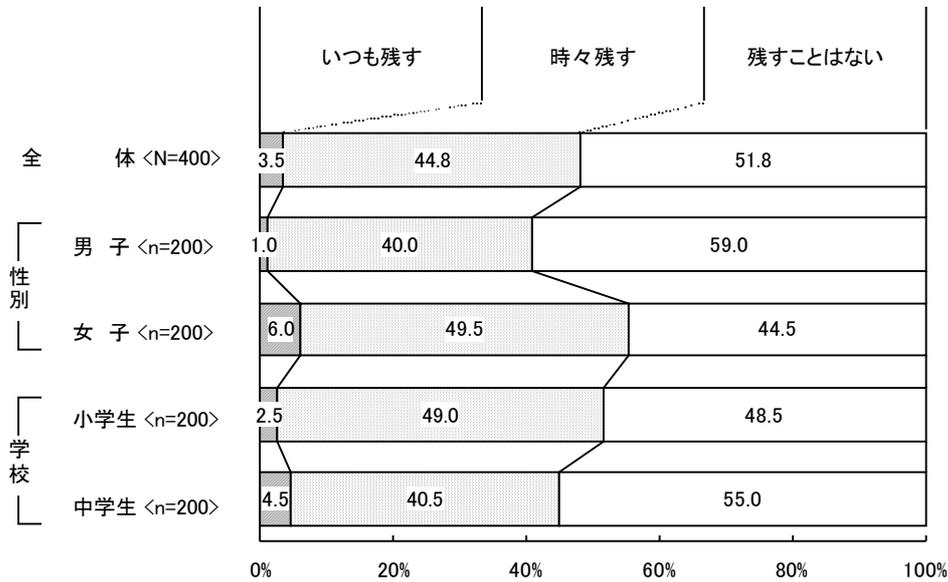
性別にみると、いずれも「おかずとご飯を交互に食べる」が最も多くなっていますが、《女子》(71.0%)の方が《男子》(61.5%)よりもやや高く、逆に「おかずを一種類ずつ食べる」は《男子》(24.0%)の方が《女子》(15.5%)よりも高めになっています。

学校別にみると、《小学生》は「おかずだけ先に食べる」(22.0%)が《中学生》(11.5%)より高率で、《中学生》は「おかずとご飯を交互に食べる」(73.0%)が《小学生》(59.5%)よりも高くなっており、《中学生》の方がバランスのとれた食べ方をしているようです。年齢と共にバランスが良くなるのか、あるいは、最近になって子どもの“ばっかり食べ”が増えてきたのかもしれません。

4. 食事を残すことがあるか

「残すことはない」(51.8%)が半数強で、「いつも残す」(3.5%)あるいは「時々残す」(44.8%)子どもとほぼ半々

図 19. 食事を残すことがあるか



次に食事を残すことがあるかを聞いたところ、「残すことはない」(51.8%)子どもは半数強で、ほかには「いつも残す」(3.5%)、あるいは「時々残す」(44.8%)と答えています。

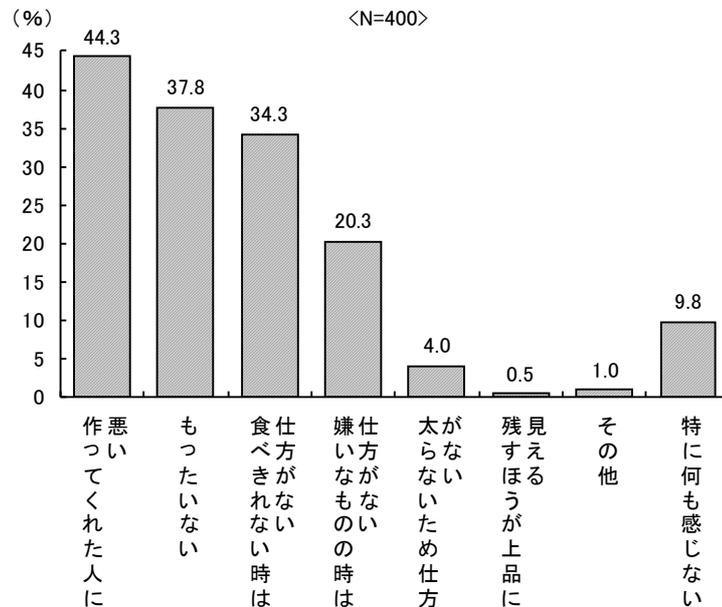
性別にみると、《女子》では“残すことがある”(55.5%)子どもが半数を超えているのに対し、《男子》では41.0%に止まり、「残すことはない」(59.0%)という子どもの方が多くなっています。男子の方が食べる量が多いからかも知れません。

学校別にみると、《中学生》は「残すことはない」(55.0%)が《小学生》(48.5%)より高くなっており、食べる量が増えていることがうかがえます。

5. 食事を残すことについての考え

「作ってくれた人に悪い」(44.3%)、「もったいない」(37.8%)と罪悪感をもつ子どもが多いが、「食べきれない時は仕方がない」(34.3%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(20.3%)など、“仕方がない”と思っている子どもも少なくない

図 20. 食事を残すことについての考え（複数回答）



性別	男子 <n=200>	女子 <n=200>
小学生 <n=200>	45.0	41.0
中学生 <n=200>	43.5	34.5
残こある <n=193>	27.5	28.5
残こない <n=207>	59.9	46.4

それでは、食事を残すことについてはどのように考えているのでしょうか。

最も多いのは「作ってくれた人に悪い」(44.3%)で、4割以上があげています。次いで「もったいない」(37.8%)が続き、残すことに罪悪感をもつ子どもが多いようです。一方、「食べきれない時は仕方がない」(34.3%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(20.3%)など“仕方がない”と思っている子どもや、「特に何も感じない」(9.8%)子どもも少なくありません。

性別にみると、《男子》よりも《女子》の方が「食べきれない時は仕方がない」との回答が20ポイント近く高く(男子25.5%、女子43.0%)、ここでも食べる量の違いが影響していることがうかがえます。

食事を残すことの有無別にみると、残すことが《ない》子どもは「作ってくれた人に悪い」(食事を残すことがある27.5%、食事を残すことがない59.9%)、「もったいない」(同28.5%、46.4%)の2項目が高く、逆に《ある》子どもは「食べきれない時は仕方がない」(同54.9%、15.0%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(同33.2%、8.2%)が高率になっています。残さずに食べる子どもは、食べ物や作ってくれた人に畏敬の気持ちがあるようです。

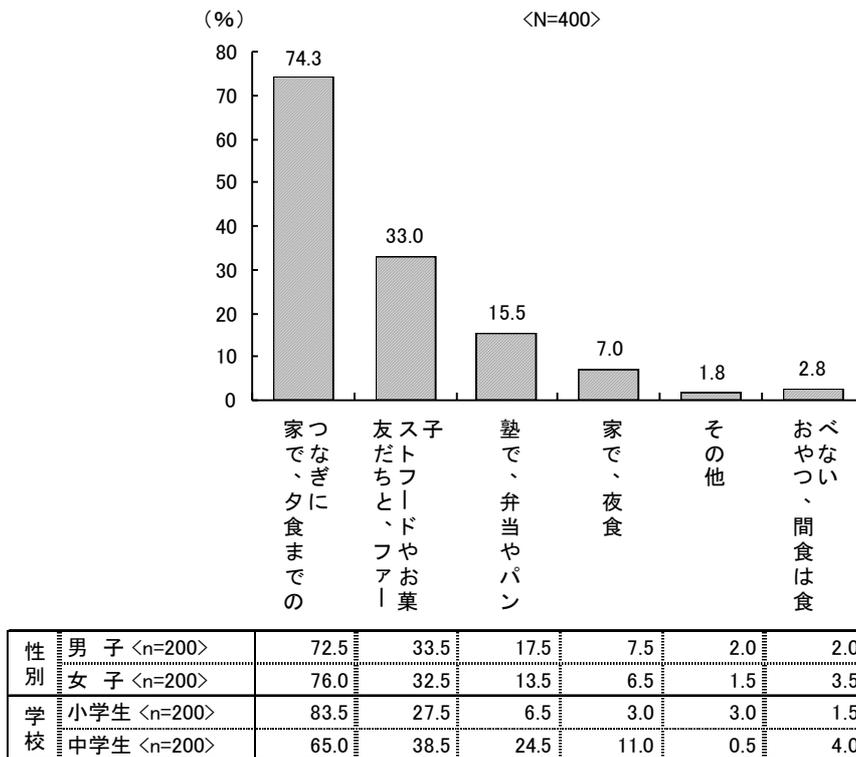
【前回との比較】

前回、子どものいる主婦400人に『食品を捨てることについて、どう感じるか』を聞いた時も、「もったいない」(90.3%)が突出して高く、以下、「もっと計画的に購入したい」(57.3%)、「作った人に申し訳ない」(29.0%)など、食べ物を無駄にすることへ罪悪感が上位を占めており、概ねではありますが、子どもにもその考え方は伝わっているようです。

6. 毎日の食事のほかに、おやつなどの間食をどんな時に食べているか

「家で、夕食までのつなぎに」(74.3%)、「友だちと、ファーストフードやお菓子」(33.0%)など、大半の子どもが間食をとっており、「おやつ、間食は食べない」(2.8%)子どもはほとんどいない

図 21. 毎日の食事のほかに、おやつなどの間食をどんな時に食べているか（複数回答）



毎日の食事のほかに、おやつなどの間食をどのようなシーンにおいて食べているかを聞いたところ、「家で、夕食までのつなぎに」(74.3%)が4人に3人と最も多く、次いで「友だちと、ファーストフードやお菓子」(33.0%)、そして「塾で、弁当やパン」(15.5%)、「家で、夜食」(7.0%)が続いています。「おやつ、間食は食べない」(2.8%)という子どもはほとんどみられません。

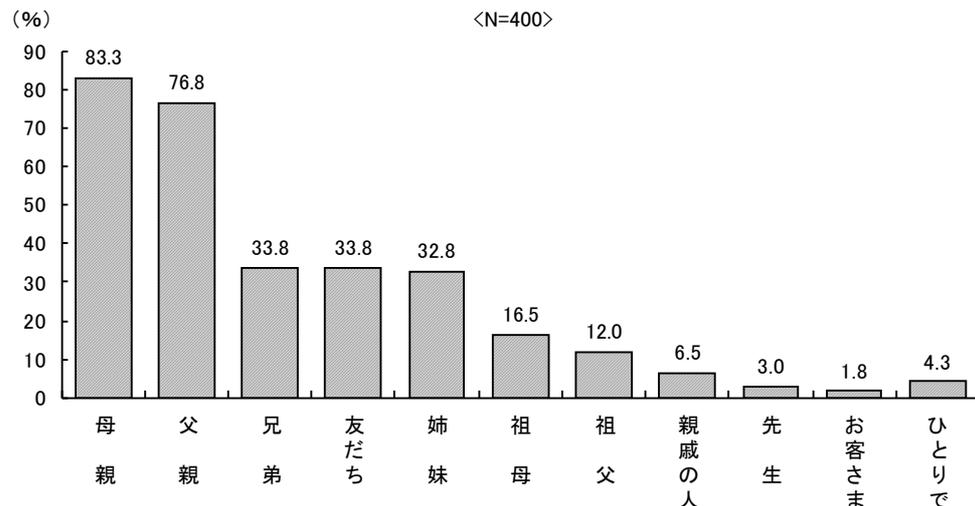
性別では特に差はありませんが、学校別にみると、「小学生」は「家で、夕食までのつなぎに」(83.5%)が一層高く、「中学生」になると「友だちと、ファーストフードやお菓子」(38.5%)や「塾で、弁当やパン」(24.5%)などが高くなります。「中学生」は外で間食をとる機会が多くなるようです。

塾に《通っている》子どもは「友だちと、ファーストフードやお菓子」(37.1%)、「塾で、弁当やパン」(26.3%)と、外で食べるケースが《通っていない》子どもに比べて高く、「家で、夕食までのつなぎに」(63.4%)は《通っていない》(89.3%)子どもより低くなっています。

7. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか

「母親」(83.3%)、あるいは「父親」(76.8%)と食べる時がトップ。以下、「兄弟」(33.8%)、「友だち」(33.8%)、「姉妹」(32.8%)などの順だが、中には「ひとりで」(4.3%)食べるのが楽しいという子どもも

図 22. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか (複数回答)



性別	男子 <n=200>	80.0	76.5	35.5	31.5	26.5	14.5	13.0	6.5	1.0	1.5	5.0
	女子 <n=200>	86.5	77.0	32.0	36.0	39.0	18.5	11.0	6.5	5.0	2.0	3.5
学校	小学生 <n=200>	90.0	85.0	38.0	29.5	35.0	21.5	17.0	8.5	4.0	2.0	1.0
	中学生 <n=200>	76.5	68.5	29.5	38.0	30.5	11.5	7.0	4.5	2.0	1.5	7.5

食事は誰と一緒に食べるときが楽しいかを聞いたところ、「母親」(83.3%)、「父親」(76.8%)がともに8割前後を占め、親と一緒に食べるのが楽しいという子どもが最も多くなっています。以下、「兄弟」(33.8%)、「友だち」(33.8%)、「姉妹」(32.8%)、「祖母」(16.5%)などが続きますが、わずかながら「ひとりで」食べるのが楽しい(4.3%)という子どももみられます。

性別にみると、男女で「父親」や「兄弟」の率はあまり変わりませんが、「女子」は「姉妹」(39.0%)が「男子」(26.5%)よりも10ポイント以上高く、「母親」(順に86.5%、80.0%)も「女子」のほうが高めです。女の子は同性を好む傾向が、男子より強いようです。

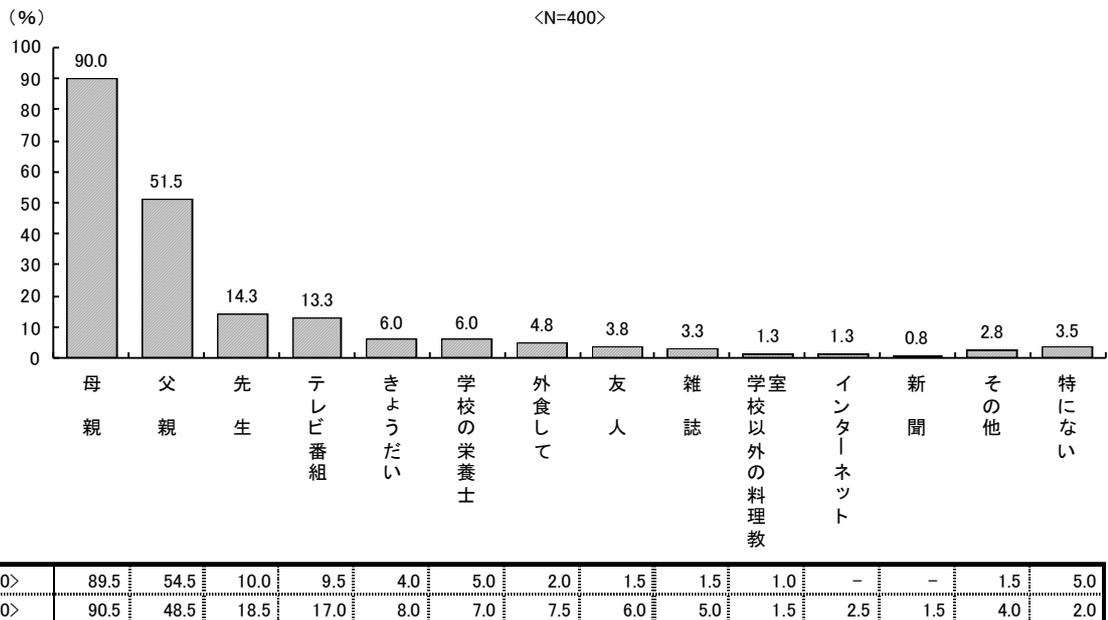
学校別にみると、「小学生」では「母親」「父親」「兄弟」「祖母」「祖父」など家族の割合が高く、反対に「中学生」は「友だち」が高くなっています。中学生になると、自立心・独立心が芽生えて家族離れが始まるのかも知れません。

なお、先にみたように、「一緒に夕食を食べることが多い人」は「母親」(94.3%)、「きょうだい」(75.3%)、「父親」(51.8%)、「ひとりで」(19.8%)、「祖父・祖母」(9.5%)ですから、「父親」「祖父・祖母」は実際以上に期待されているということになります。

1. これまで料理や食べ物、食べ方について、どんな人やどんな方法から学んできたか

「母親」(90.0%)、「父親」(51.5%)が上位を占め、両親の影響が圧倒的に大きい。「先生」(14.3%)、「テレビ番組」(13.3%)、「学校の栄養士」(6.0%)、「きょうだい」(6.0%)などは比較的低率

図 23. これまで料理や食べ物、食べ方について、どんな人やどんな方法から学んできたか（複数回答）



これまで料理や食べ物、食べ方について、主に誰から、あるいはどんな方法で学んできたかをきいてみました。

最も多いのは「母親」(90.0%)で、9割の子どもがあげています。「父親」(51.5%)が次いで多く、やはり両親の存在が大きくなっています。以下、「先生」(14.3%)、「テレビ番組」(13.3%)などが続いています。しかし、「母親」「父親」に比べると低く、食育については学校の先生よりも両親の影響がはるかに大きいようです。

性別にみると、「女子」は「先生」(18.5%)、「テレビ番組」(17.0%)が「男子」よりも若干高めになっています。

また、学校別による傾向の違いはありませんが、「中学生」になると「先生」(16.5%)あるいは「テレビ番組」(16.0%)、「雑誌」(5.5%)など親以外から学ぶことも幾分多くなっています。

【前回との比較】

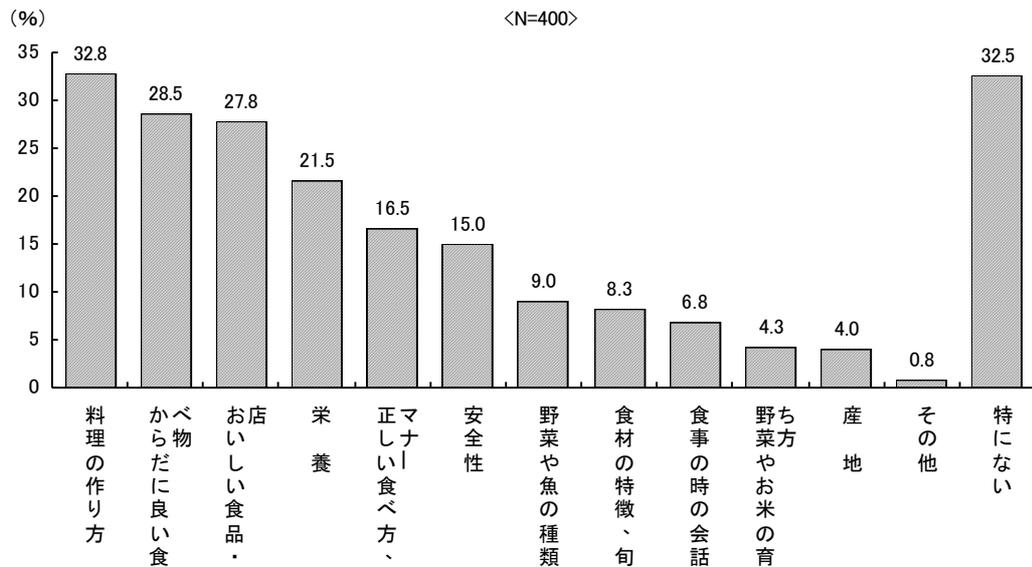
前回、子どものいる主婦400人にたずねた時も「母親」(75.0%)が最も高く、親の世代も自分の母親からの影響が大きくなっています。以下、「テレビ番組」(68.3%)、「雑誌」(59.5%)などが続いており、主婦になるとさまざまな媒体を通して情報を集めるようです。

2. 料理や食べ物、食べ方について知りたいこと、関心のあること

「料理の作り方」(32.8%)、「からだに良い食べ物」(28.5%)、「おいしい食品・店」(27.8%)、「栄養」(21.5%)、「正しい食べ方、マナー」(16.5%)、「安全性」(15.0%)などに関心を持っているが、「特にない」(32.5%)子どもも3割以上を占める

●総じて女子の方が男子より幅広い事柄に興味を示している

図 24. 料理や食べ物、食べ方について知りたいこと、関心のあること（複数回答）



性別	男子 <n=200>	24.5	20.0	23.5	17.5	12.5	11.5	8.5	8.5	3.0	3.0	4.0	-	47.0
女子 <n=200>	41.0	37.0	32.0	25.5	20.5	18.5	9.5	8.0	10.5	5.5	4.0	1.5	18.0	
学校	小学生 <n=200>	31.0	27.5	19.5	20.0	16.0	12.0	11.0	7.5	8.0	6.0	4.0	-	38.0
	中学生 <n=200>	34.5	29.5	36.0	23.0	17.0	18.0	7.0	9.0	5.5	2.5	4.0	1.5	27.0

料理や食べ物、食べ方について知りたいこと、関心のあることを聞いたところ、「料理の作り方」(32.8%)が3割強で最も多く、以下、「からだに良い食べ物」(28.5%)、「おいしい食品・店」(27.8%)、「栄養」(21.5%)、「正しい食べ方、マナー」(16.5%)、「安全性」(15.0%)などが続いています。しかし、「特にない」(32.5%)という子どもも3割以上とかなりの割合に達しています。

性別にみると、総じて《女子》の方が《男子》よりも高率で、より幅広い事柄に興味を持っているようです。《男子》は「特にない」(47.0%)が半数近くを占め、《女子》(18.0%)の2倍以上になっています。

学校別にみると、全体的には変わらないものの《中学生》は「おいしい食品・店」(36.0%)が《小学生》(19.5%)よりもかなり高く、グルメ情報への関心が高まるようです。

なお、きょうだいがある子ども、家族人数が多い子どもは、「料理の作り方」など主な項目が一層高率です。

【前回との比較】

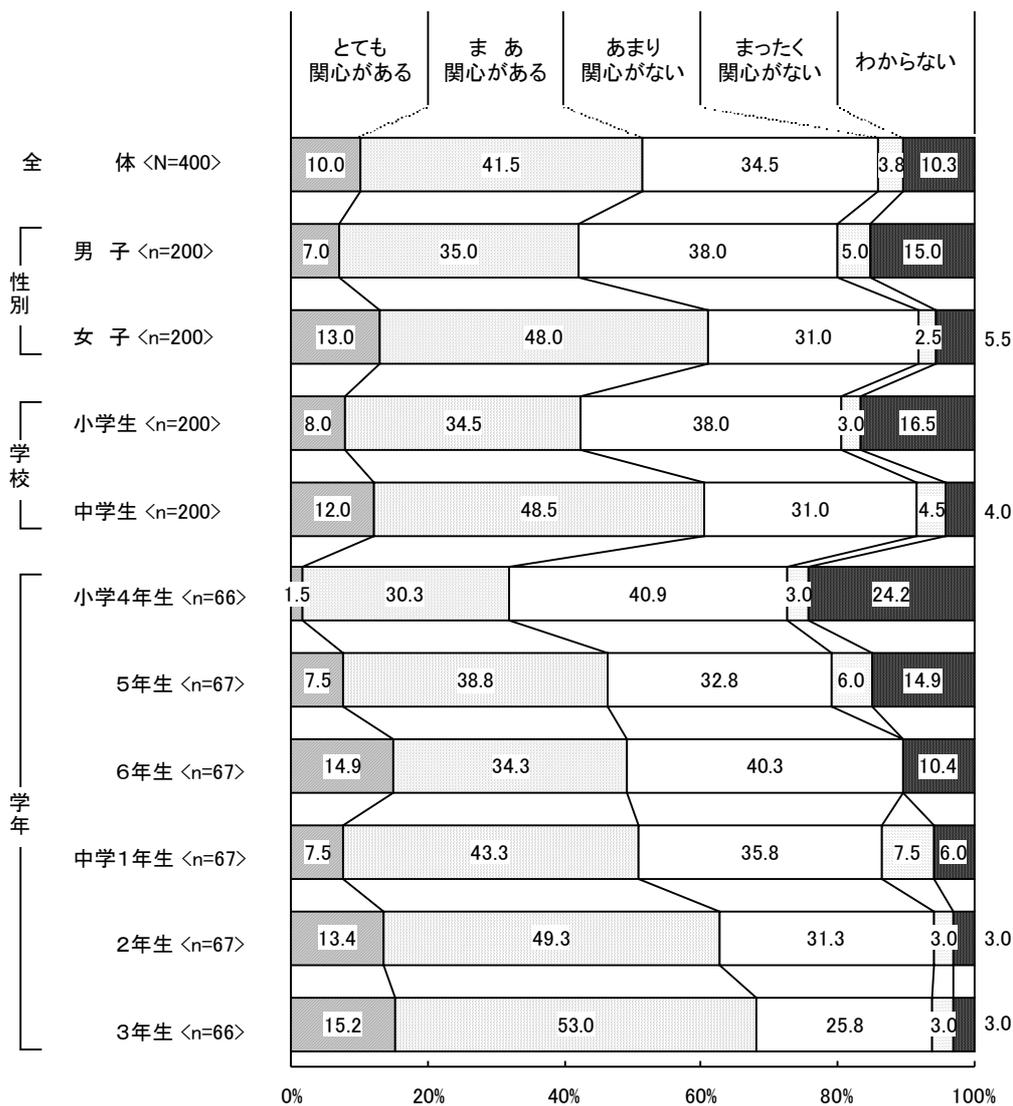
前回、子どものいる主婦400人に『食について、関心がある・日頃から知りたいと思う・情報を集めている事柄』を聞いた時の結果をみると、「献立・レシピ」(77.5%)が最も高く、以下、「からだに良い食べ物」(56.3%)、「調理の技術・コツ」(51.3%)、「栄養」(44.8%)などの順となっています。料理を作る立場だけに、全体に子どもよりかなり関心度は高くなっていますが、作り方や栄養に対する関心が高い点は子どもと共通しています。

3. 「食の安全」ということにどのくらい関心があるか

“関心がある”(51.5%)子どもが、“関心がない”(38.3%)を上回る

- 男子より女子の方が、小学生より中学生の方が“関心がある”
- 関心がある事柄は、「鳥インフルエンザ」(57.3%)、「BSE(狂牛病)」(54.9%)と、ニュースに取り上げられた事件が1位、2位を占め、以下、「保存期間」(38.3%)、「食品添加物」(35.0%)、「ファーストフードやインスタント食品」(22.8%)、「農薬」(21.8%)などの順

図 25. 「食の安全」ということにどのくらい関心があるか



「食の安全」について話題にのぼることが最近多くなっていますが、子どもたちはこのことにどの程度関心を持っているのでしょうか。

“関心がある（とても+まあ）”（51.5%）子どもが半数を超え、“関心がない（あまり+全く）”（38.3%）を10ポイントほど上回っています。前問では「安全性」（15.0%）に関心事にあげる子どもはそれほどみられません

たが、いざ考えてみるとやはり気になる子どもが少なくないようです。

性別にみると、「関心がある（とても+まあ）」割合は、《女子》（61.0%）の方が《男子》（42.0%）よりも20ポイント近く高くなっています。

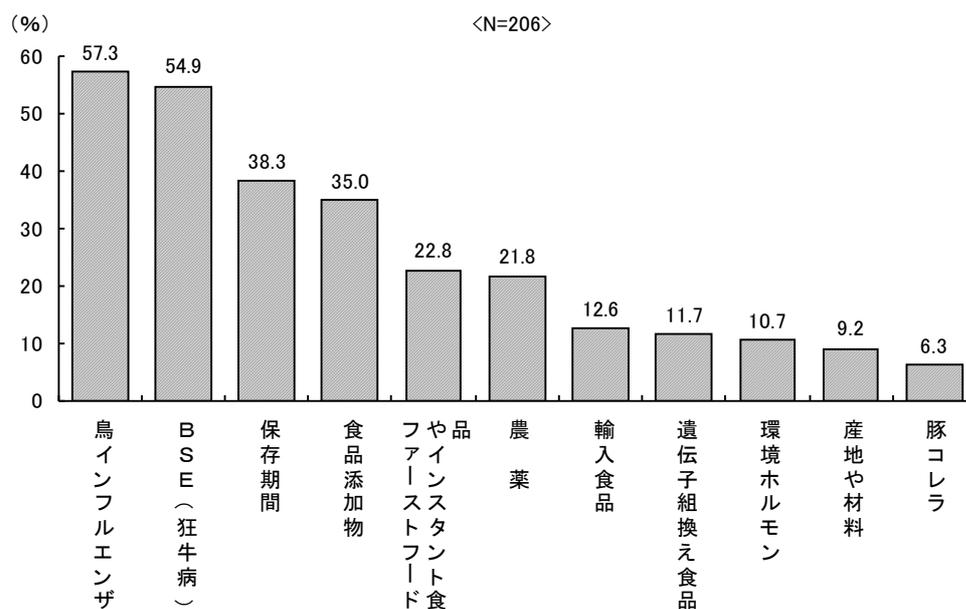
学校別にみると、《小学生》では「関心がある」（42.5%）と「関心がない」（41.0%）がほぼ同程度ですが、《中学生》になると、「関心がある」（60.5%）という子どもの方が「関心がない」（35.5%）という子どもを25ポイントも上回っています。

さらに学年別では、学年が上がるごとに関心が高くなっており、最も高い《中学3年生》ではほぼ7割（68.2%）に達しています。

【前回との比較】

前回、子どものいる主婦400人に聞いた結果をみると、「関心がある」（88.8%）人が9割近くに達しており、家族を思う気持ちからか、親の方が関心度は圧倒的に高くなっています。

図 26. 関心のある内容（複数回答）



性別	男子 <n=84>	52.4	57.1	32.1	28.6	20.2	26.2	13.1	9.5	10.7	7.1	8.3
女子 <n=122>	60.7	53.3	42.6	39.3	24.6	18.9	12.3	13.1	10.7	10.7	10.7	4.9
学校	小学生 <n=85>	56.5	49.4	41.2	21.2	21.2	21.2	10.6	8.2	5.9	14.1	5.9
	中学生 <n=121>	57.9	58.7	36.4	44.6	24.0	22.3	14.0	14.0	14.0	5.8	6.6

「関心がある」と答えた子どもにその内容を複数回答であげてもらったところ、「鳥インフルエンザ」（57.3%）、「BSE（狂牛病）」（54.9%）の2項目を半数以上があげています。テレビなどでよく取り上げられている上、日常的に食べている食材だけに関心度が高いのでしょう。以下、「保存期間」（38.3%）、「食品添加物」（35.0%）、「ファーストフードやインスタント食品」（22.8%）、「農薬」（21.8%）などの順となっています。

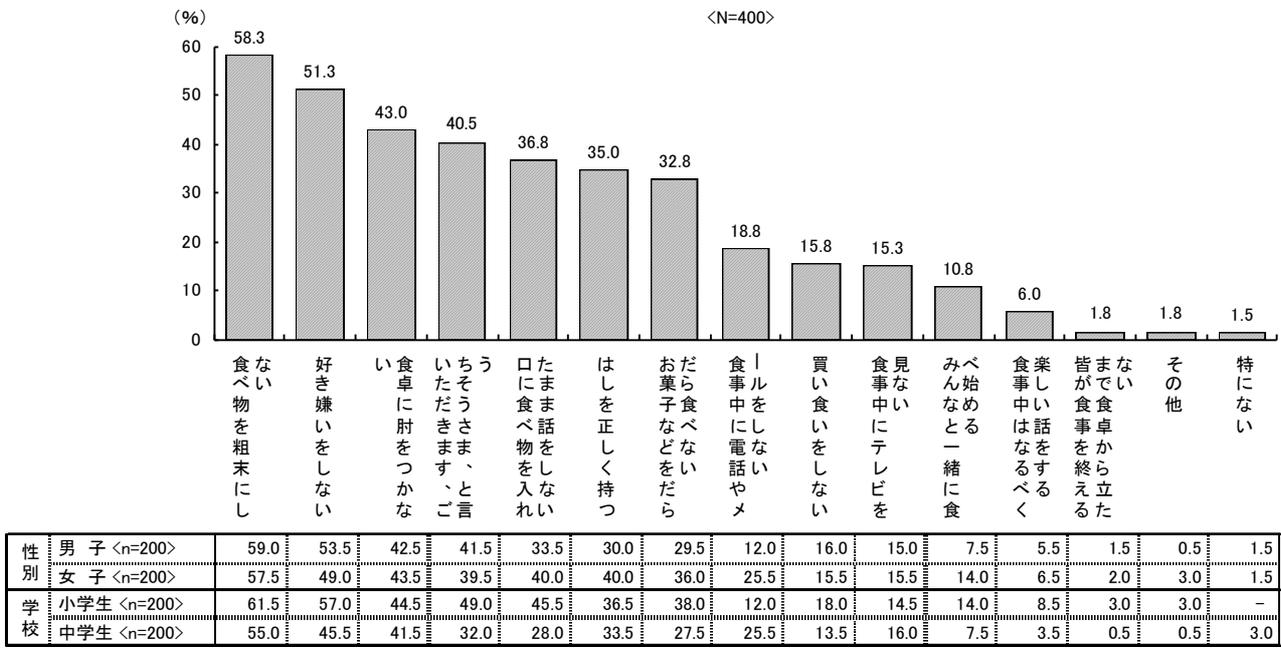
性別にみると、《女子》は「鳥インフルエンザ」（男子 52.4%、女子 60.7%）、「保存期間」（同 32.1%、42.6%）、「食品添加物」（同 28.6%、39.3%）など関心を持つ項目が多くなっていますが、「農薬」に対する関心は《男子》（26.2%）の方が《女子》（18.9%）よりも高めです。

学校別にみると、全般に《中学生》の方が高い関心を示しており、特に「食品添加物」（小学生 21.2%、中学生 44.6%）における差が大きくなっています。

4. 家で、食べ物や食事について守るように言われていること

「食べ物を粗末にしない」(58.3%)が最も多く、以下、「好き嫌いをしない」(51.3%)、「食卓に肘をつかない」(43.0%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(40.5%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(36.8%)などの順

図 27. 家で、食べ物や食事について守るように言われていること（複数回答）



家で、食べ物や食事について守るように言われているのはどのようなことでしょうか。

「食べ物を粗末にしない」(58.3%)を約6割があげて最も多く、食べ物が豊富な現在でも、食べ物を大事にするという教えは失われていないようです。以下、「好き嫌いをしない」(51.3%)、「食卓に肘をつかない」(43.0%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(40.5%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(36.8%)、「はしを正しく持つ」(35.0%)などが続いています。また、「食事中に電話やメールをしない」(18.8%)が2割近くみられ、携帯電話が子どもにまで普及してきたことによる新たなマナーの問題も生まれてきています。一方、「みんなと一緒に食べ始める」(10.8%)は1割程度にすぎず、食事はみんなが揃って食べるという意識は薄れつつあるようです。

性別にみてもそれ程差はありませんが、《女子》は「はしを正しく持つ」(男子 30.0%、女子 40.0%)、「食事中に電話やメールをしない」(男子 12.0%、女子 25.5%)の2項目について、《男子》よりも親から言われることが多くなっています。

学校別にみると、全般に《小学生》の方が高率で、食事に関するしつけは小学生の頃により力を入れて行われているようですが、「食事中に電話やメールをしない」は《中学生》(25.5%)の方が《小学生》(12.0%)よりも高率になっています。おそらく、携帯電話所有率は中学生の方が高く、友人とのやりとりも多いためでしょう。

なお、きょうだいが《いる》子どもや同居家族人数の多い家庭の子どもは、多くの項目で高率になっており、特に「好き嫌いをしない」(きょうだいがいない31.9%、いる55.5%)、「食卓に肘をつかない」(同16.7%、48.8%)は、きょうだいの有無で20ポイント以上の差があります。きょうだいへの注意も、自分に向けられたものと受取っているためかも知れません。

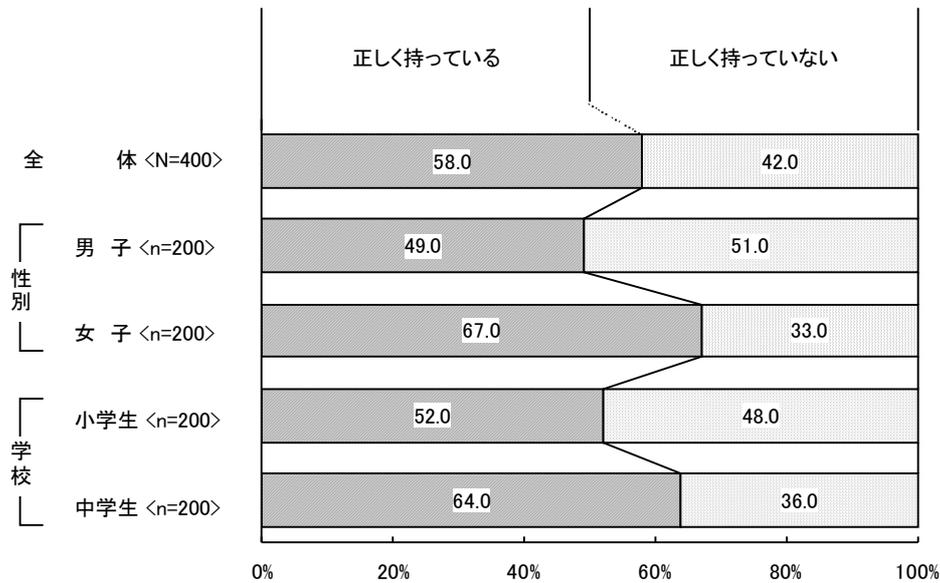
【前回との比較】

前回、子どものいる主婦 400 人に『子育てをする中で、食べ物や食事について、言い聞かせたり、守らせようとしたこと』を聞いた時は、「いただきます、ごちそうさま、と言う」（73.3%）が最も高く、以下、「食べ物を粗末にしない」（69.5%）、「好き嫌いをしない」（67.0%）、「食卓に肘をつかない」（58.8%）などの順で、上位にあげられている項目は子どもと共通しています。また、「皆が食事を終えるまで食卓から立たない」（6.5%）、「皆と一緒に食べ始める」（21.8%）などが比較的低率な点も同じであり、親の方が既に家族揃って食事をとるという習慣を重視しなくなっているようです。

5. はしを正しく持っているか

「正しく持っている」のは6割弱(58.0%)で、4割強(42.0%)の子どもは「正しく持っていない」
 はしを正しく持ち、「おかずとご飯を交互に食べる」子どもは全体の44.5%

図 28. はしを正しく持っているか



はしを正しく持っているか、イラストを示して聞いたところ、「正しく持っている」(58.0%)と答えた子どもが約6割を占めていますが、「正しく持っていない」(42.0%)も4割強と、子どもの世代への伝達は十分とはいえません。前問でみた「家で、食べ物や食事について守るように言われていること」で「はしを正しく持つ」をあげたのは3人に1人(35.0%)程度であり、はしの持ち方をきちんと教えている親も減少しているのかも知れません。

性別にみると、《男子》(49.0%)よりも《女子》(67.0%)の方が「正しく持っている」子どもが多いようです。

学校別にみると、《小学生》(52.0%)よりも《中学生》(64.0%)の方が「正しく持っている」率は高くなっています。

また、きょうだいの《いる》子どもは「正しく持っている」(61.0%)が《いない》子どもの44.4%より15ポイント強高くなっています。

<はしの持ち方と食生活の意識・実態との関わり>

はしを正しく持つことは、和食の動作やマナーの基本ですが、それが身についているか否かによる、食生活の意識と実態との関わりをみてみました。女子や中学生に多いということが影響している面もあるでしょう。

	《正しく持っている》 子どものうち左の条件 に合致する子どもの率	《持っていない》 子どものうち左の条件 に合致する子どもの率
・食事の時に「家族と話をする」	88.8%	68.5%

「だまって食べているだけ」	6.0%	17.3%
・夕ごはんをひとりで食べる時「つまらない」	31.8%	14.3%
「気楽」	13.6%	42.9%
・ふだんの食べ方「おかずとご飯を交互に食べる」	76.7%	51.8%
「おかずだけ先に食べる」	8.6%	28.0%
・食事を残すことについて「もったいない」	44.4%	28.6%
「作ってくれた人に悪い」	48.7%	38.1%
・食べ物、食べ方について学んできた相手「父親」	53.4%	48.8%
「先生」	19.8%	6.5%
「テレビ番組」	16.4%	8.9%
を始め、どの相手も《正しく持っている》子どものほうが高率		
・食べ物、食べ方について何らかの関心を持っている	80.6%	49.4%
・食の安全に「関心がある」	64.2%	33.9%
「関心がない」	28.0%	52.4%
・「食器を運ぶ」など、食べ物や食事について行ってきた	89.7%	65.5%

以上のように、はしを《正しく持っている》子どもは、《持っていない》子どもに比べて、家族とよくコミュニケーションをとっており、食べ物や食べ物への接し方に関心を持ち、食生活への参加度も高くなっています。というより、そのような環境が『はしを正しく持つ』ことを身に付けるために必要、ということなのでしょう。

<食べる環境と基本的な食習慣・マナーの身に付き方>

はしを正しく持っているか否かと、ふだんの食べ方（24P）を組み合わせると、《はしを正しく持ち、「おかずとご飯を交互に食べる」》子どもは全体の44.5%、《はしを正しく持たず、食べ方に偏りがある（「おかずとご飯を交互に食べる」以外）》子どもは20.3%であり、そのどちらでもない子どもが35.3%です。基本的な食習慣とマナーが身に付いている（はしを正しく持ち、おかずとご飯を交互に食べる）子どもと、身に付いていない（はしを正しく持たず、食べ方に偏りがある）子どもに分かれているようですが、そのことと、他の調査項目との関わりを見ました。

なお、基本的な食習慣とマナーが《身に付いている（はしを正しく持ち、おかずとご飯を交互に食べる）》子どもは、《小学生》（37.0%）ではまだ少なく、《中学生》（52.0%）になると増えるので、成長とともに改善されることがうかがわれます。また、男女別では、《男子》（35.0%）に少なく、《女子》（54.0%）で多くなっています。

	《身に付いている》 子どものうち左の条件 に合致する子どもの率	《身に付いていない》 子どものうち左の条件 に合致する子どもの率	《それ以外》 子どものうち左の条件 に合致する子どもの率
・朝ごはんを「ひとりで」食べることが多い	24.3%	31.3%	22.7%
・夕ごはんを「ひとりで」食べることが多い	16.3%	25.9%	19.9%
・夕ごはんをひとりで食べる時「つまらない」	30.0%	19.0%	21.4%
「気楽」	13.3%	42.9%	28.6%
・手作り食品以外のものが家の夕ごはんにでる回数（週に）	1.4回	1.9回	1.7回

・食事の時にしていること「家族と話をする」	91.0%	59.3%	78.7%
「だまって食べているだけ」	6.2%	16.0%	13.5%
		《身に付いている》	《身に付いていない》
・食事を「残すことがある」	43.3%	54.3%	51.1%
・食事を残すことについて「もったいない」	45.5%	19.8%	38.3%
「作ってくれた人に悪い」	50.6%	32.1%	43.3%
「嫌いなもののは時は仕方がない」	16.3%	30.9%	19.1%
・料理や食べ物、食べ方について学んできた相手			
「母親」	91.6%	87.7%	89.4%
「父親」	54.5%	42.0%	53.2%
「先生」	20.2%	9.9%	9.2%
「テレビ番組」	18.5%	7.4%	9.9%
・料理や食べ物、食べ方について何らかに関心「あり」	85.4%	49.4%	55.3%
「特にない」	14.6%	50.6%	44.7%
・食の安全に「関心がある」	66.9%	32.1%	43.3%
「関心がない」	25.8%	53.1%	45.4%
・守るように言われていること「食卓に肘をつかない」	51.1%	27.4%	41.8%
「はしを正しく持つ」	37.6%	25.9%	36.9%
・食器を並べるなど、食べ物や食事について			
「何らかを行ってきた」	91.6%	60.5%	75.2%
・父親が食べ物や食事について「何らかを行っている」	67.8%	59.0%	69.5%
参加項目平均	1.5	1.1	1.4
・学校給食がある人のうち、給食が「好き」	61.8%	55.4%	47.5%
・学校で「食」について教わった内容			
「食べ物の好き嫌いへの対応」	13.5%	3.7%	12.8%
「栄養」	47.8%	28.4%	39.0%
「食の安全」	24.2%	13.6%	24.1%
		などほとんどの項目について《身に付いている》子どものほうが高率	
・学校でお米や野菜を育てたことが「ある」	66.3%	53.1%	62.4%
・お米や野菜を育ててみて「楽しい」	42.4%	34.9%	31.8%
「面白い」	28.8%	18.6%	19.3%
「つまらない」	11.9%	23.3%	18.2%
「むずかしい」	39.8%	32.6%	30.7%

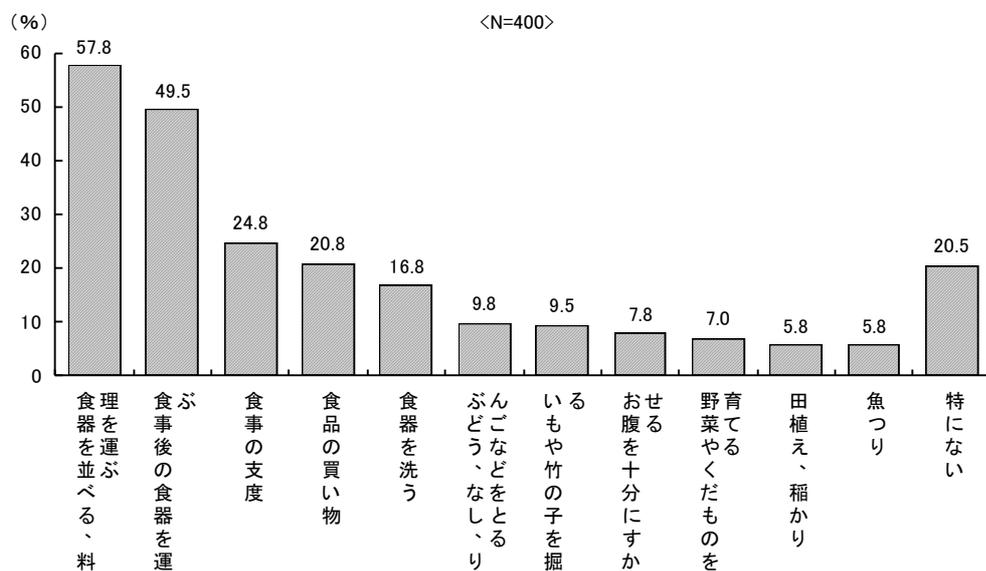
以上のように、基本的な食習慣とマナーが《身に付いている》子どもは、《身に付いていない》子どもに比べて、母親、父親とも食生活への参加度が高く、家族間のコミュニケーションがよくとれており、食べ物への関心や食べ物への畏敬の気持ちも持っています。また、学校教育の影響も少なくありません。基本的な食習慣とマナーは、そのような環境を背景に伝わっていくものようです。

6. 食べ物や食事について、おこなってきたこと

「食器を並べる、料理を運ぶ」(57.8%)、「食事後の食器を運ぶ」(49.5%)など、食事のときの手伝いが中心で、「ぶどう、なし、りんごなどをとる」(9.8%)、「いもや竹の子を掘る」(9.5%)など、食べ物を育てたり収穫したりする経験は少ない。

- 総じて女子の方が男子より高率
- 「食事のしたく」でしていることは、「お米をとぐ」(55.6%)、「野菜などの皮をむく、切る」(53.5%)、「野菜などを洗う」(46.5%)などの料理の下準備から、「ご飯を炊く」、「料理を作る」(各 43.4%)など実際の調理までさまざま
- 「料理を作る」という子どもが作っているのは、「サラダ」(10件)、「味噌汁」(9件)、「カレーライス」(8件)、「卵焼き」(4件)、「チャーハン」(4件)、「ギョウザ」(4件)など

図 29. 食べ物や食事について、おこなってきたこと (複数回答)



性別	男子 <n=200>	女子 <n=200>
料理を並べる、食器を運ぶ	36.5	79.0
食事後の食器を運ぶ	38.0	61.0
食事の支度	14.0	35.5
食品の買い物	10.5	31.0
食器を洗う	7.5	26.0
ぶどう、なし、りんごなどをとる	8.0	11.5
いもや竹の子を掘る	7.5	11.5
お腹を十分にすか	9.5	6.0
野菜やくだものを育てる	4.5	9.5
田植え、稲かり	4.0	7.5
魚つり	7.5	4.0
特になし	33.5	7.5

食べ物や食事について、何か自分でやっていることがあるかを聞いたところ、「特になし」(20.5%)という子どもが2割で、「何らかを行っている」子どもは8割(79.5%)でした。具体的に行っているのは、「食器を並べる、料理を運ぶ」(57.8%)、「食事後の食器を運ぶ」(49.5%)の“食器運び”や、「食事の支度」(24.8%)、「食品の買い物」(20.8%)、「食器を洗う」(16.8%)など準備や後始末で、食事のときに何らかの手伝いをする、という子どもが多いようです。一方、「ぶどう、なし、りんごなどをとる」(9.8%)、「いもや竹の子を掘る」(9.5%)、「野菜やくだものを育てる」(7.0%)のように、作物を育てたり収穫したりする経験はかなり低くなっています。

性別にみると、全般に《女子》の方が高率であり、特に「食器を並べる、料理を運ぶ」(男子 36.5%、女子 79.0%)では40ポイント以上の差が生じています。

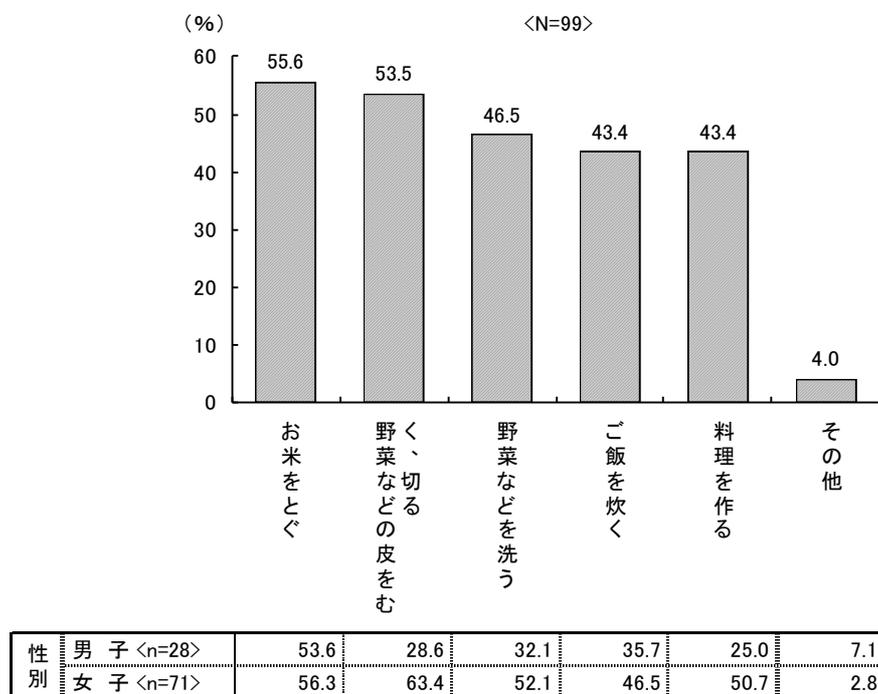
学校別による傾向の違いはありませんが、《小学生》の方がすこしずつ高率の項目が多くなっています。小学生の時に「食器を並べる、料理を運ぶ」(61.0%)ことなどを習慣づけても、中学生になると勉強やクラブ活動優先で、参加・実行の度合いが低下しているのかもしれません。

きょうだいの有無別にみると、総じてきょうだいがある《いる》子どもの方がいろいろなことを手伝っています。「食器を並べる、料理を運ぶ」（きょうだいがいない：33.3%、いる：63.1%）、「食事後の食器を運ぶ」（同 34.7%、52.7%）、「食器を洗う」（同6.9%、18.9%）などの差が大きくなっています。

【前回との比較】

前回、子どものいる主婦 400 人に『子育てのなかで、食べ物や食事について、参加・実行させるようにしてきたこと』を聞いた結果をみると、「食事後の食器を運ぶ」（75.0%）が最も多く、以下、「食卓の準備」（65.8%）、「食事の支度」（52.5%）などが上位を占めています。子どもが食器運びなど食事の準備・後かたづけを行うことが多いのは、親の意向によるところが大きいです。

図 30. 「食事のしたく」でしていること（複数回答）



「食事のしたく」をしている子どもにその内容を聞いたところ、「お米をとぐ」（55.6%）、「野菜などの皮をむく、切る」（53.5%）、「野菜などを洗う」（46.5%）が上位で、料理の下準備を手伝うことが多いようです。また、「ご飯を炊く」（43.4%）、「料理を作る」（43.4%）など、実際の調理を行う子どもも4割強みられます。

性別にみると、ほとんどの項目で、《女子》が《男子》を大きく上回っています。

【前回との比較】

前回の調査結果をみても「お米をとぐ」（74.8%）が最も高く、以下、「野菜などの皮をむく、切る」（71.4%）などが上位を占め、同傾向を示しています。

表 2. 作る料理（自由回答：ベスト10）

順位		件数	男子	女子
1	サラダ	10	0	10
2	味噌汁	9	1	8
3	カレーライス	8	0	8
4	卵焼き	4	1	3
	チャーハン	4	2	2
	ギョウザ	4	2	2
7	目玉焼き	3	1	2
	ラーメン	3	2	1
9	野菜炒め	2	0	2
	うどん	2	0	2
	肉炒め	2	0	2
	スクランブルエッグ	2	1	1
	ハンバーグ	2	1	1

「料理を作る」と答えた子どもに、どんな料理を作るのか自由回答であげてもらったところ、「サラダ」（10件）、「味噌汁」（9件）、「カレーライス」（8件）、「卵焼き」（4件）、「チャーハン」（4件）、「ギョウザ」（4件）など、さまざまな回答がみられました。

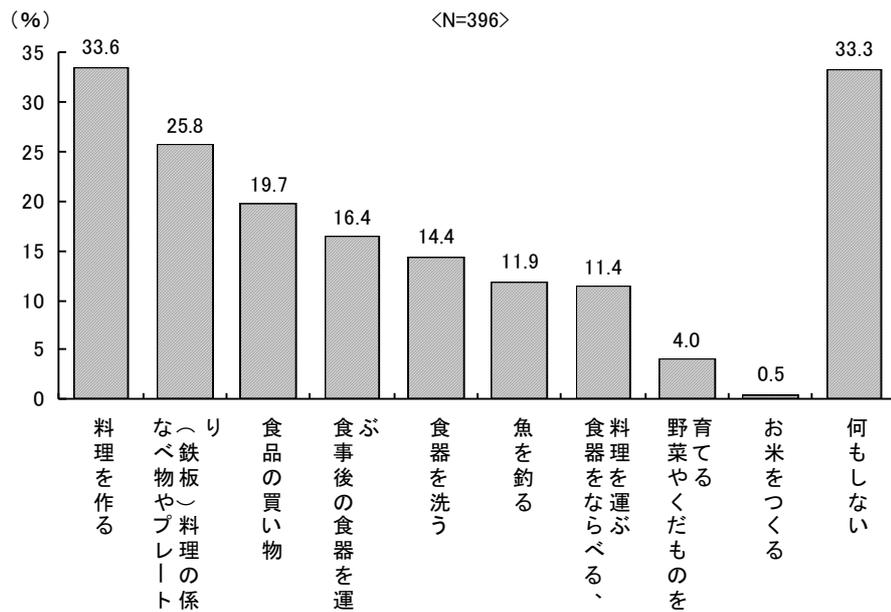
7. 父が食べ物や食事についておこなっていること

「料理を作る」(33.6%)、「なべ物やプレート(鉄板)料理の係り」(25.8%)など、食事を作ることが中心で、3分の2が“何らかのことをしている”(66.7%)

●3種類以上行っている参加度の高い父親は17.7%

●父親の食生活参加度が高い家庭の子どもほど「食の安全」への関心度が高い

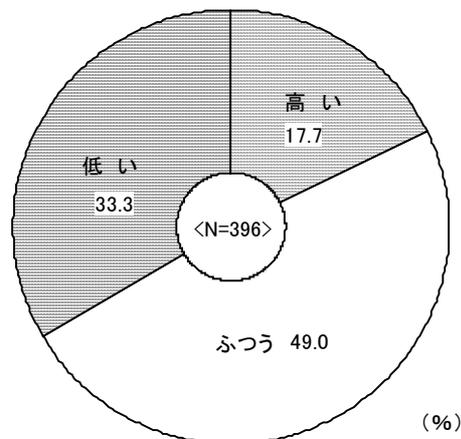
図 31. 父親が食べ物や食事についておこなっていること（複数回答）



ところで、父親は食べ物や食事についてどのようなことをおこなっているのでしょうか。

“何らかのことをしている”(66.7%)父親は3分の2で、「料理を作る」(33.6%)、「なべ物やプレート(鉄板)料理の係り」(25.8%)など、食事を作る役割が上位を占めています。以下、「食品の買い物」(19.7%)、「食事後の食器を運ぶ」(16.4%)、「食器を洗う」(14.4%)などの食事の準備や後かたづけが続いています。なお、ここでも「魚を釣る」(11.9%)、「野菜やくだものを育てる」(4.0%)などは低く、食べ物を育てたり収穫したりする機会は親の世代においても少なくなっているようです。

図 32. 父親の食生活参加度



前問でみた、「父が食べ物や食事についておこなっていること」について、該当数をもとに「高い」=3個以上、「ふつう」=1~2個、「低い」=0個として“父親の食生活への参加度”を測定したところ、「ふつう」(49.0%)がほぼ半数を占めていますが、「低い」(33.3%)が3分の1で「高い」(17.7%)のほぼ2倍となっており、参加度はやや低めといったところです。なお、該当数の平均は「1.4項目」となっています。

<父親の“食生活参加度”と子どもの回答の関係>

父親の“食生活参加度”別に子どもの回答との関わりをみました。父親の“食生活参加度”が高いほど、食事の時に「家族と話をする」「父親と一緒に食べると楽しい」「料理や食べ物、食べ方について父親から学んできた」「はしを正しく持っている」といった項目で、強い相関がみられます。父親が積極的に食生活に参加することは、家族のコミュニケーションや子どもの食についての関心、参加度を高めるなど、影響が大きいようです。

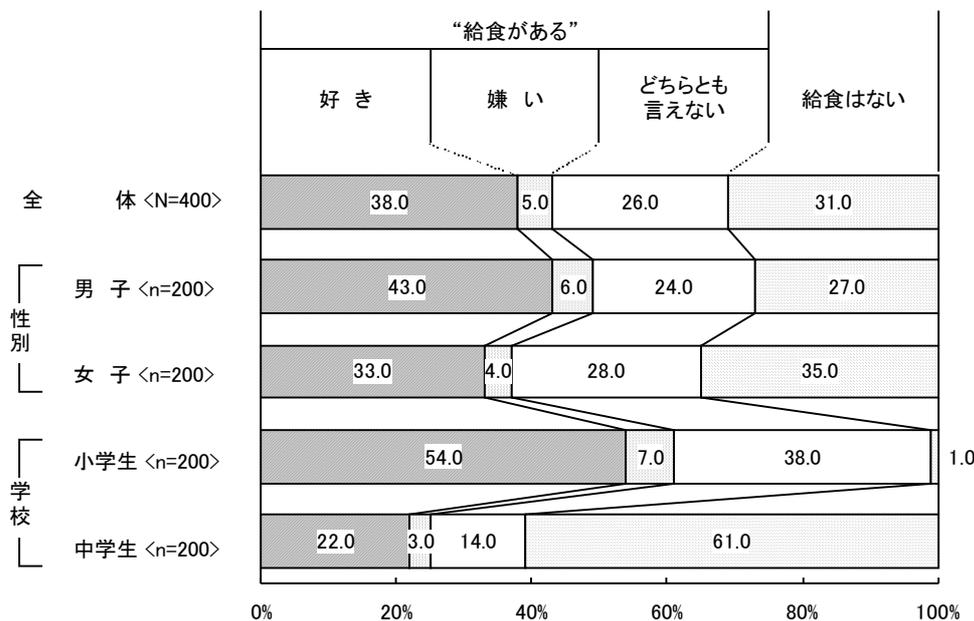
	《高い》	《ふつう》	《低い》
・食事の時に「家族と話をする」	91.4%	83.0%	71.2%
・食事を「父親」と一緒に食べると楽しい	85.7%	83.0%	65.2%
・料理や食べ物、食べ方について 「父親」から学んできた	61.4%	53.1%	44.7%
・食の安全に「関心がある」子ども	64.3%	56.7%	48.5%
・はしを「正しく持っている」	72.9%	56.7%	53.0%

1. 学校給食が好きか

給食がある(69.0%)子どもの55.1%は給食が「好き」で、「嫌い」(7.2%)な子どもはごく少数

●学校給食について感じていることは「みんなで食べると楽しい」(51.4%)が最も多く、以下、「家で食べないメニューを食べることができる」(42.8%)、「おいしい」(37.0%)、「バラエティに富んでいる」(31.5%)など、好意的な評価がほとんど

図 33. 学校給食が好きか

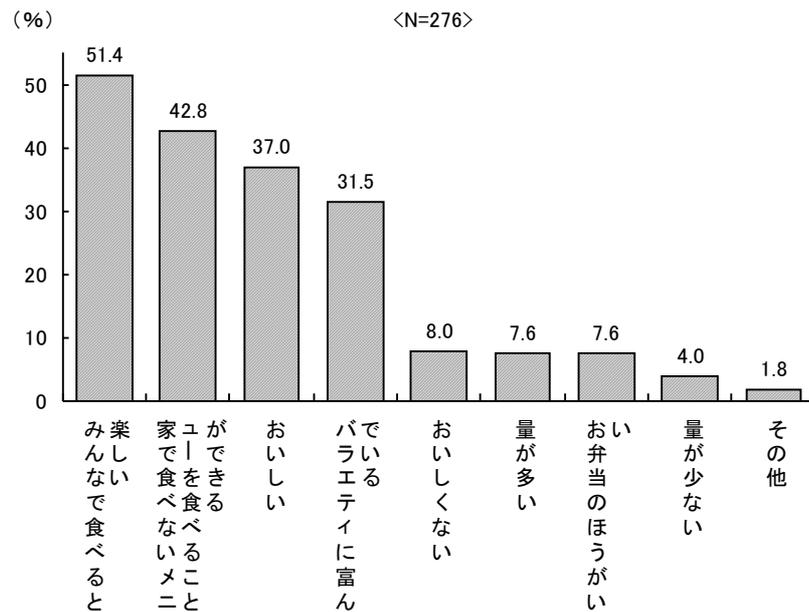


学校給食が好きかどうかを聞いたところ、「好き」という子どもがほぼ4割(38.0%)を占めており、「嫌い」(5.0%)という子どもはほとんどいません。給食は概ね好評のようです。「給食がある」(69.0%)子どものみで見ると、55.1%が給食が「好き」で、「嫌い」は7.2%になります。

性別にみると、《男子》は「好き」(43.0%)が《女子》(33.0%)よりも10ポイント高くなっています。

学校別にみると、《小学生》では「給食はない」(1.0%)学校はごくまれですが、《中学生》になると6割強(61.0%)と、給食がない学校の方が多くなっています。「給食はない」場合を除いて集計してみると、「好き」な率は《小学生》54.5%、《中学生》56.4%、「嫌い」は《小学生》7.1%、《中学生》7.7%とほとんど変わりません。給食がある場合は、子どもたちの多くが給食を好んで食べていることがわかります。

図 34. 学校給食について感じていること（複数回答）



性別	男子 <n=146>	51.4	42.5	34.2	30.1	7.5	0.7	8.9	4.8	1.4
	女子 <n=130>	51.5	43.1	40.0	33.1	8.5	15.4	6.2	3.1	2.3
学校	小学生 <n=198>	53.5	42.4	41.4	29.3	8.1	8.1	10.1	4.5	1.5
	中学生 <n=78>	46.2	43.6	25.6	37.2	7.7	6.4	1.3	2.6	2.6
学校給食	好き <n=152>	67.1	51.3	61.2	39.5	1.3	2.6	2.6	4.6	1.3
	嫌い <n=20>	5.0	10.0	10.0	5.0	60.0	25.0	45.0	5.0	5.0
	どちらとも言えない <n=104>	37.5	36.5	6.7	25.0	7.7	11.5	7.7	2.9	1.9

学校給食についてどのようなことを感じているかをみると、「みんなで食べると楽しい」（51.4%）が半数強で最も多く、以下、「家で食べないメニューを食べることができる」（42.8%）、「おいしい」（37.0%）、「バラエティに富んでいる」（31.5%）など、集団で食べる楽しさや味・メニューの豊富さなど、いろいろな面で評価されています。一方、「おいしくない」（8.0%）、「量が多い」（7.6%）、「お弁当のほうがいい」（7.6%）、「量が少ない」（4.0%）などの否定的な評価はいずれも少数となっています。

性別にみると、全体的な傾向は変わりませんが、「量が多い」との回答は《女子》（15.4%）がほとんどで《男子》（0.7%）はごく少数です。

学校別にみると、《小学生》は「おいしい」（41.4%）が《中学生》（25.6%）を大きく上回っていますが、「お弁当のほうがいい」（10.1%）も《中学生》（1.3%）より多く、学校でお弁当を食べることへの憧れもうかがえます。

2. 給食のメニューで好きな料理、きれいな料理

【好きな料理】は、「カレーライス」(51件)が断然トップで、「ラーメン」(20件)が続く。以下、「揚げパン」(16件)、「スパゲッティ」(14件)、「鶏の唐揚げ」(12件)、「スープ」(12件)、「うどん」(11件)などの順

【きれいな料理】は、「魚全般」(21件)や、「ピーマン」(14件)、「野菜全般」(13件)、「サラダ」(12件)、「トマト」(9件)、「にんじん」(7件)などの“野菜”

表 3. 給食のメニューで好きな料理、きれいな料理 (自由回答：ベスト15)

順位	【好きな料理】	件数	男子	女子	順位	【きれいな料理】	件数	男子	女子
1	カレーライス	51	35	16	1	魚全般	21	12	9
2	ラーメン	20	15	5	2	ピーマン	14	8	6
3	揚げパン	16	6	10	3	野菜全般	13	9	4
4	スパゲッティ	14	6	8	4	レバー	12	7	5
5	鶏の唐揚げ	12	6	6		サラダ	12	7	5
	スープ	12	5	7	6	納豆	11	7	4
7	うどん	11	3	8	7	煮物	10	6	4
8	シチュー	8	4	4	8	トマト	9	7	2
	ビビンバ	8	5	3	9	にんじん	7	5	2
	焼きそば	8	2	6	10	牛乳	6	5	1
	混ぜご飯	8	3	5		酢の物	6	3	3
12	チャーハン	7	6	1		ひじき	6	0	6
13	グラタン	6	1	5		ぶどうパン	6	2	4
	コロッケ	6	3	3		カレー	6	3	3
15	ゼリー	4	0	4	15	グリーンピース	5	5	0
	サラダ	4	1	3		アスパラガス	5	4	1
	豚汁	4	4	0					

給食のメニューで好きな料理、きれいな料理を自由回答で答えてもらったところ、【好きな料理】は、「カレーライス」(51件)が断然トップとなっています。次いで「ラーメン」(20件)があげられているのが目立っています。伸びやすいラーメンが人気メニューになっているのは、自校調理方式の学校が増えていることの現れかもしれません。以下、「揚げパン」(16件)、「スパゲッティ」(14件)、「鶏の唐揚げ」(12件)、「スープ」(12件)、「うどん」(11件)などの順となっています。8位の「ビビンバ」(8件)も近年採り入れられるようになったメニューですが、人気があるようです。

性別にみると、《男子》は1位の「カレーライス」(男子35件、女子16件)、2位の「ラーメン」(同15件、5件)とも《女子》よりかなり多くなっています。

次いで、**【きれいな料理】**では、「魚全般」(21件)が最も多くなっていますが、「ピーマン」(14件)、「野菜全般」(13件)、「サラダ」(12件)、「トマト」(9件)、「にんじん」(7件)と野菜全体では99件で、魚(26件)を大きく上回っており、野菜嫌いは深刻のようです。そのほか、「レバー」(12件)、「納豆」(11件)、「煮物」(10件)なども並んでいます。

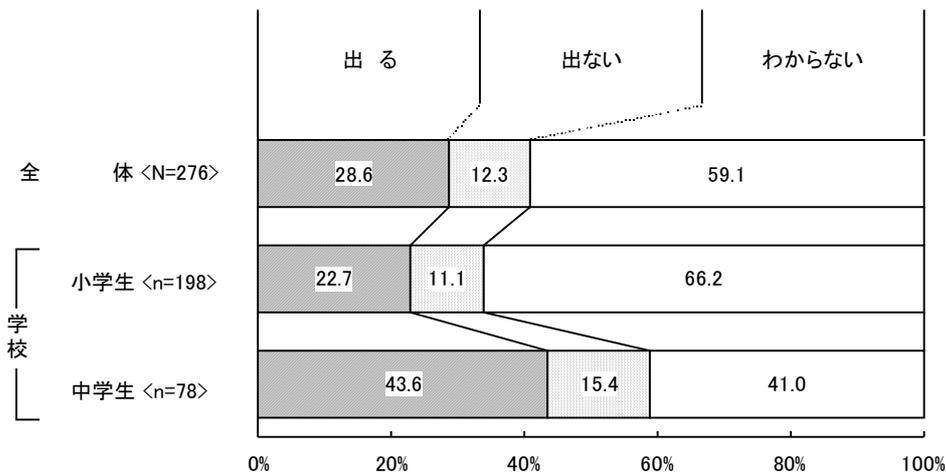
性別では全般に、《男子》からよくあげられている料理、食材が多く、**【好きな料理】** **【きれいな料理】**とも《男子》のほうがはっきりしているようです。

3. 給食に地元の食べ物や材料が出てくるか

「わからない」(59.1%)が6割を占め、食材については特に意識していない子どもが多い。「出る」と認識している子どもは3割弱(28.6%)

●具体的には、「野菜」(41件)、「にんじん」(11件)、「大根」(9件)、「キュウリ」(8件)、「トマト」(6件)と“野菜”がほとんど。野菜以外では「米」(5件)、「牛乳」(2件)など

図 35. 給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるか



給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるかどうかを聞いたところ、「わからない」がほぼ6割(59.1%)を占めており、食材について特に意識していない子どもが多いようです。「出る」との回答は3割弱(28.6%)で、「出ない」(12.3%)は1割程度となっています。

学校別にみると、「小学生」は「わからない」(66.2%)が3分の2を占めていますが、「中学生」でも「わからない」(41.0%)が半分弱です。「小学生」では「出る」(22.7%)が「出ない」(11.1%)のおよそ2倍、「中学生」では「出る」(43.6%)が「出ない」(15.4%)のおよそ3倍となっており、地産地消が一定程度進んでいることがわかります。

表 4. 給食に出る地元の食べ物や材料（自由回答：ベスト10）

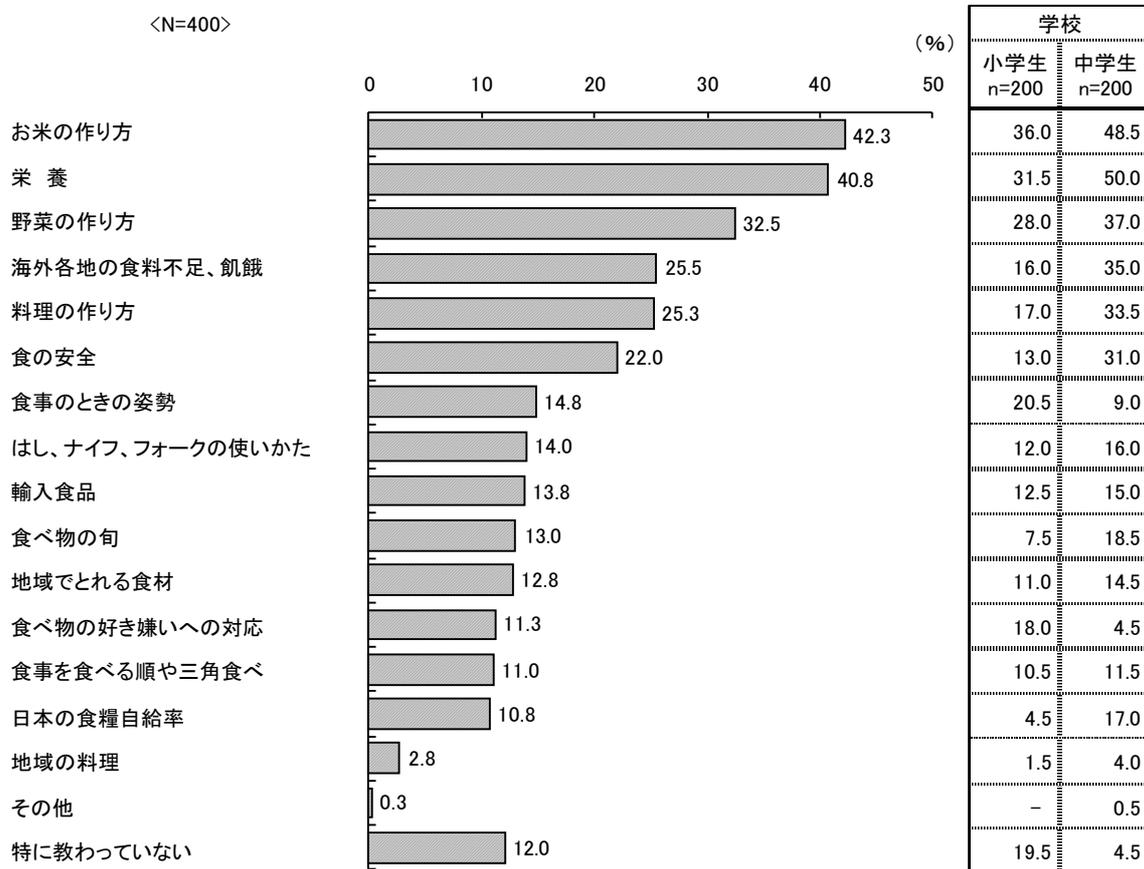
順位		件数
1	野菜	41
2	にんじん	11
3	大根	9
4	キュウリ	8
5	トマト	6
6	米	5
7	ネギ	4
8	キャベツ	3
	ジャガイモ	3
10	牛乳	2
	ピーマン	2

給食に地元の食べ物や材料が「出る」と答えた人に、その食べ物や材料を自由回答であげてもらったところ、圧倒的に「野菜」（41件）が多くなっています。2位以下も、「にんじん」（11件）、「大根」（9件）、「キュウリ」（8件）、「トマト」（6件）と、具体的な野菜があげられています。野菜以外では、「米」（5件）、「牛乳」（2件）などがみられます。

4. 学校で、「食」について教わった内容

「お米の作り方」(42.3%)と「栄養」(40.8%)が多く、以下、「野菜の作り方」(32.5%)、「海外各地の食料不足、飢餓」(25.5%)、「料理の作り方」(25.3%)、「食の安全」(22.0%)などの順

図 36. 学校で、「食」について教わった内容（複数回答）



学校で「食」についてどのようなことを教わったかを聞いたところ、「お米の作り方」(42.3%)と「栄養」(40.8%)がともに4割強と多くなっています。以下、「野菜の作り方」(32.5%)、「海外各地の食料不足、飢餓」(25.5%)、「料理の作り方」(25.3%)、「食の安全」(22.0%)などが続きますが、「食事のときの姿勢」(14.8%)、「はし、ナイフ、フォークの使いかた」(14.0%)など、マナーに関する事柄は比較的低率になっています。

学校別にみると、当然ながら、「中学生」の方が教わったことは総じて高率ですが、「食事のときの姿勢」(小学生20.5%、中学生9.0%)、「食べ物の好き嫌いへの対応」(同18.0%、4.5%)という食事に関する基本的な事柄は《小学生》の方がよく教わっているようです。

5. 学校でお米や野菜を育てたことはあるか

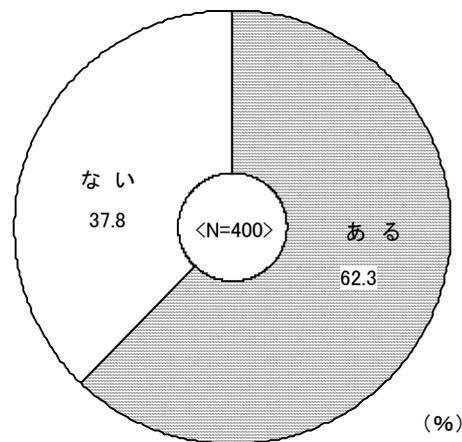
6割強の子どもがお米や野菜を育てたことが「ある」(62.3%)

●育てたことがあるのは、「米」(99件)が最も多く、以下「トマト」(83件)、「キュウリ」(34件)、「ナス」(33件)、「ミニトマト」(27件)、「サツマイモ」(22件)などさまざま

●お米や野菜を育てた感想は、「楽しい」(37.3%)が最も多いが、「むずかしい」(35.3%)、「たいへん」(32.1%)と農作業の苦勞も感じ取っている

●育てたことが「ない」子どものうち、今後育ててみたいと「思う」子どもは43.0%

図 37. 学校でお米や野菜を育てたことはあるか



学校でお米や野菜を育てた経験の有無を聞いたところ、「ある」という子どもが6割強(62.3%)となっています。

学校別にみても、「ある」との回答は《小学生》(61.0%)、《中学生》(63.5%)とあまり変わりません。多くの場合小学生の時に経験しているのでしょう。

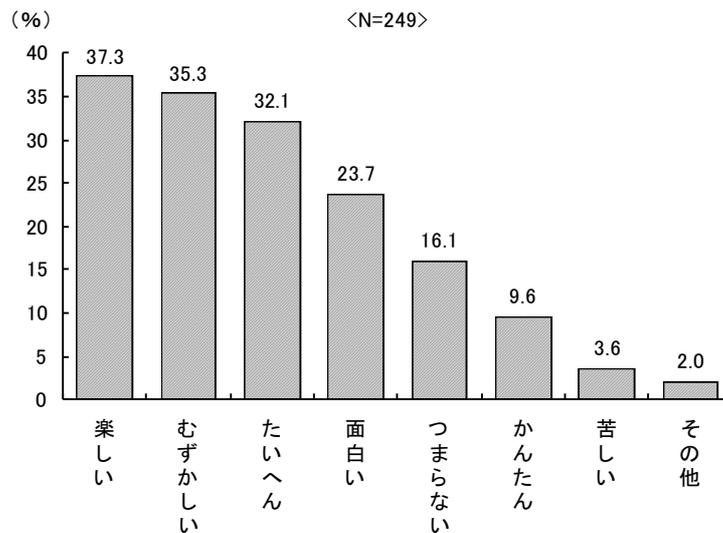
表 5. 育てたもの（自由回答：ベスト15）

順位		件数	男子	女子
1	米	99	47	52
2	トマト	83	28	55
3	キュウリ	34	13	21
4	ナス	33	11	22
5	ミニトマト	27	13	14
6	サツマイモ	22	13	9
7	ゴーヤ	15	6	9
8	大根	14	6	8
9	ジャガイモ	13	8	5
10	オクラ	12	6	6
11	トウモロコシ	11	3	8
12	ネギ	6	2	4
13	にんじん	5	0	5
	ぶどう	5	0	5
	カボチャ	5	2	3

育てたことが「ある」と回答した人に、何を育てたのか自由回答であげてもらった結果をみると、「米」（99件）が最も多く、以下「トマト」（83件）、「キュウリ」（34件）、「ナス」（33件）、「ミニトマト」（27件）、「サツマイモ」（22件）、「ゴーヤ」（15件）、「大根」（14件）など、さまざまな種類の野菜があげられています。

性別にみると、「トマト」（男子28件、女子55件）、「キュウリ」（同13件、21件）、「ナス」（同11件、22件）など、《女子》の方が多くあげている項目が目立ちます。

図 38. お米や野菜を育ててみて、どう思ったか（複数回答）

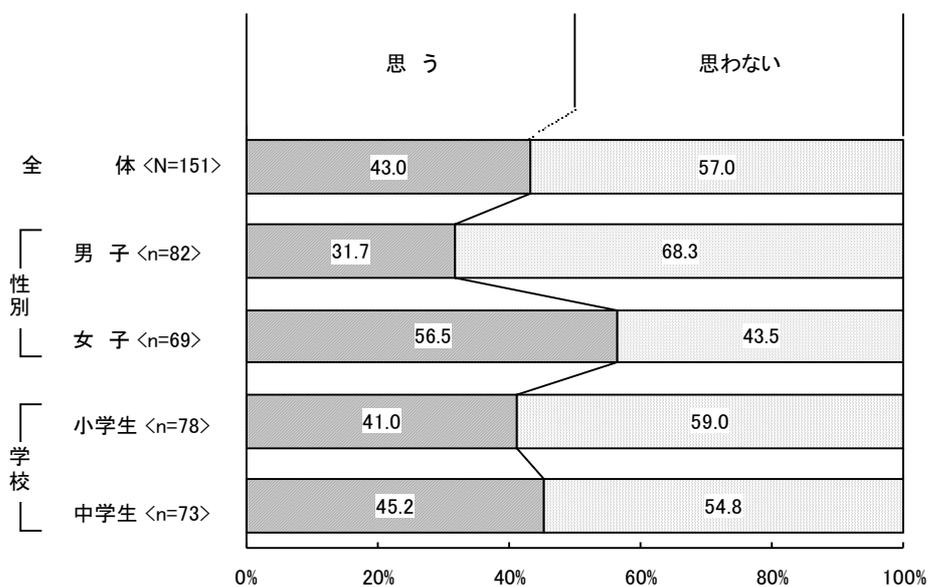


性別	男子 <n=118>	27.1	32.2	30.5	22.0	22.9	11.0	2.5	1.7
女子 <n=131>	46.6	38.2	33.6	25.2	9.9	8.4	4.6	2.3	

お米や野菜を育てたことのある子どもにも、育ててみてどう思ったかを聞いたところ、「楽しい」（37.3%）が最も多くなっていますが、「むずかしい」（35.3%）、「たいへん」（32.1%）も僅差で続いており、農作業の楽しさとたいへんさの両面を感じ取っているようです。以下、「面白い」（23.7%）、「つまらない」（16.1%）、「かんたん」（9.6%）といった順になっています。

性別にみると、「女子」の方が「楽しい」（46.6%）と感じており、「男子」（27.1%）との差は20ポイント近くあります。逆に「男子」は「つまらない」（22.9%）が「女子」（9.9%）より高くなっています。

図 39. 学校でお米や野菜を育ててみたいと思うか（育てたことが「ない」人のみ）



学校でお米や野菜を育てたことが「ない」と回答した人に、今後育ててみたいと思うかどうかを聞いたところ、「思う」（43.0%）という子どもは4割強でした。経験はなくても農業に関心のある子どもは少なくありません。

性別にみると、《女子》では育ててみたいと「思う」（56.5%）が半数を超えていますが、《男子》（31.7%）では3割にとどまり、《女子》の方が高い関心を示しています。

学校別ではあまり大きな差はありません。

農林中央金庫 広報部

〒100-8420 東京都千代田区有楽町1-13-2
DNタワー21（第一・農中ビル）
TEL. 03-3279-0111/FAX. 03-3213-5276